

## 9 WinShare

ClientManager Ver4.3には、WinShare Ver6.1が添付されています。この章では、ClientManagerのリモート操作機能を提供するWinShareの操作方法について説明します。

### 9.1 WinShare について

#### 9.1.1 WinShare とは

WinShareは、インターネット接続されているクライアントPC(リモートPC)のディスプレイに表示されているイメージを、マネージャまたはGUI(オペレーションPC)のディスプレイに表示します。

その画面イメージをとおして、リモートPCを手元のマウスやキーボードで簡単に遠隔操作することができます。

リモートPCの遠隔操作が可能となることで、遠隔地のPCの管理や保守、ユーザへの操作手順の説明、教育など、幅広い応用が可能です。

#### 9.1.2 画面構成

WinShareを起動すると、次頁のような画面が表示され、いろいろな作業に使うボタン、メニューが表示されます。

##### ▶メニュー

WinShareを使用するときには有効な機能を格納しているメニューです。

##### ▶ツールバー

WinShareを使用するときには有効な機能をすばやく実行させるためのボタンが集まったツールバーです。

##### ▶キャンバス

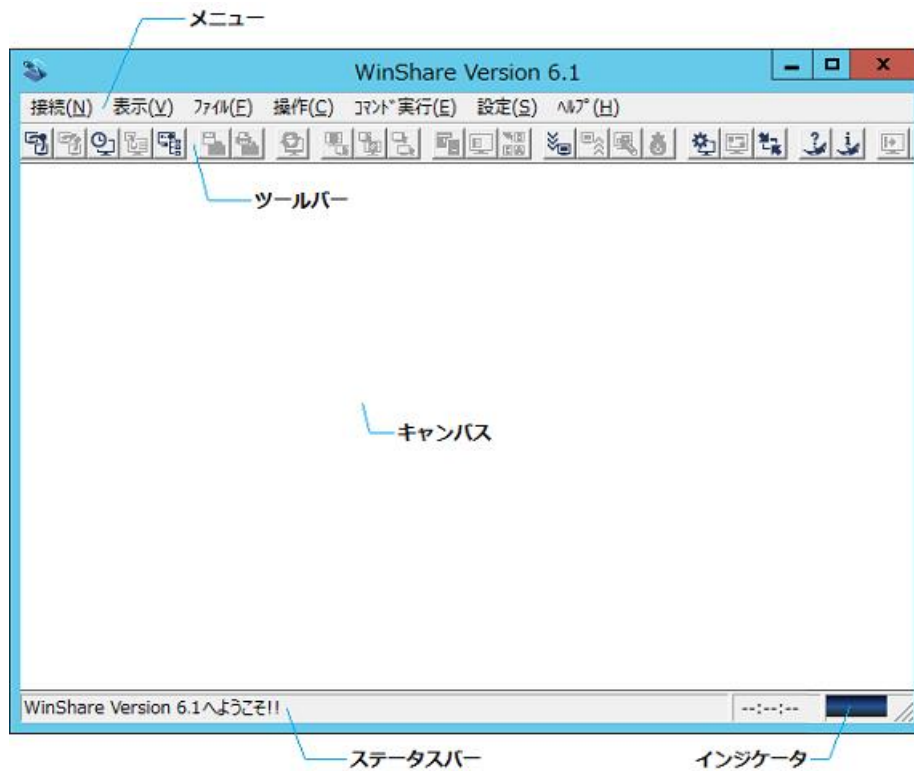
リモートPCの画面イメージが表示されるウィンドウです。

このウィンドウに対してマウスやキーボードでリモートPCを遠隔操作します。

##### ▶ステータスバー

WinShareの接続状況等の情報を表示する領域です。

ステータスバーの右端に、リモートPCから送られてくるデータの受信状況を表すインジケータも表示します。

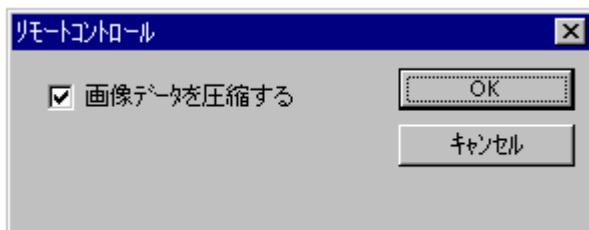


### 9.1.3 CM データビューアからの WinShare の起動

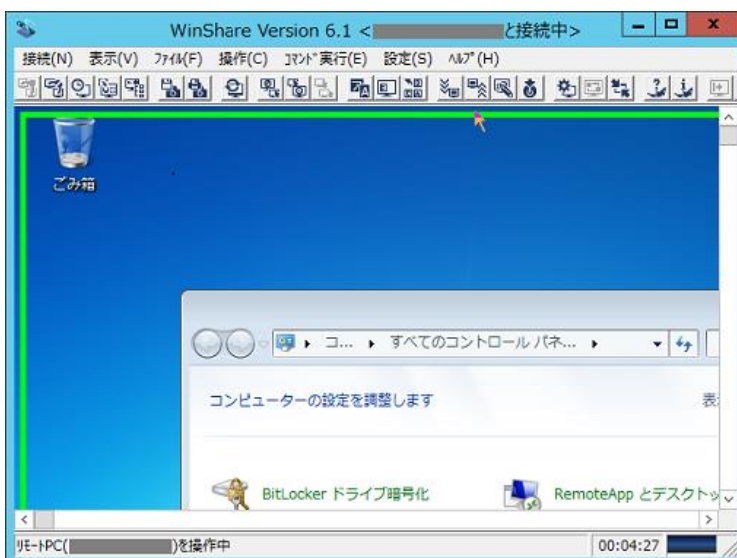
1. CMデータビューアを起動し、「ツール」メニューの「リモートコントロール」を選択してください。「リモートコントロール」ダイアログボックスが開きます。



2. 「リモートコントロール」ダイアログボックスで<OK>ボタンを押すとWinShareが起動されます。データビューアを起動しているシステムと、クライアントシステムとの間が転送速度の遅い回線で接続されている場合「画像データを圧縮する」チェックボックスをチェックし<OK>ボタンを押してください。

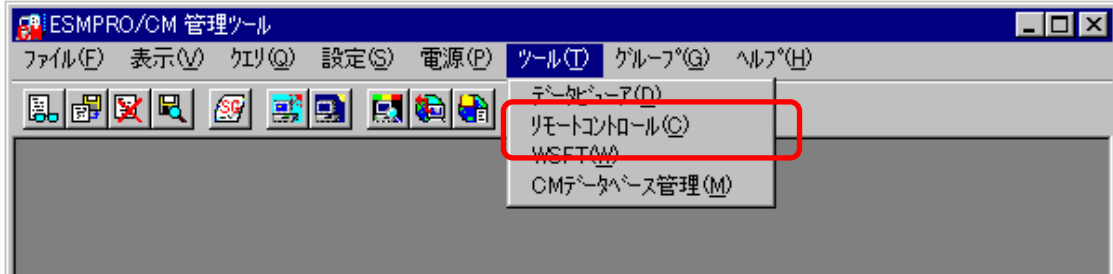


3. マウス、キーボードを使用しクライアントをリモートから操作することができます。

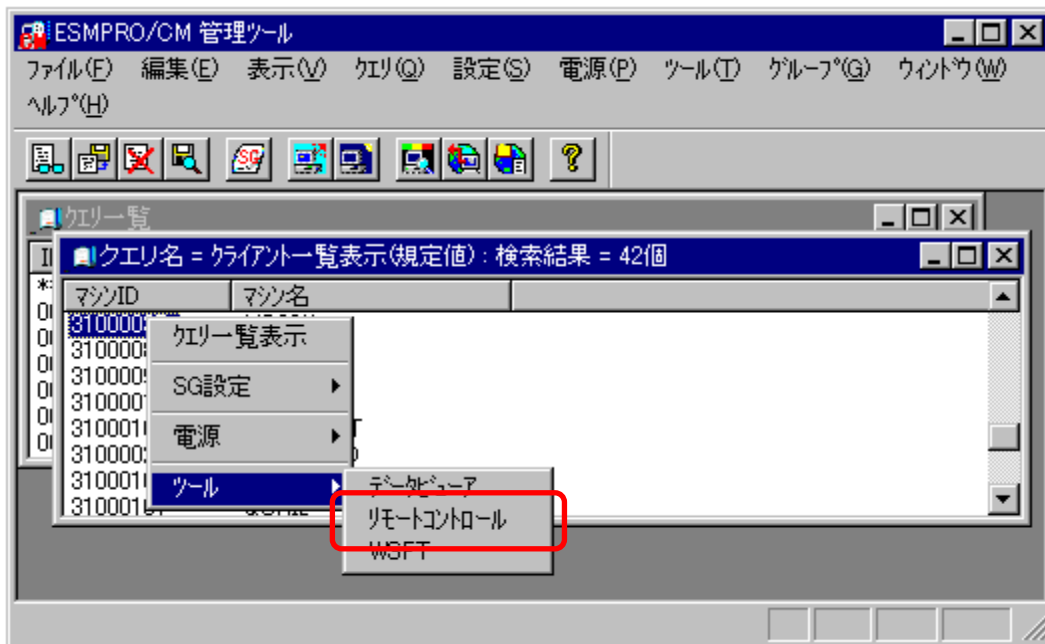


## 9.1.4 CM 管理ツールからの WinShare の起動

1. 「CM 管理ツール」を起動し、「ツール」メニューの「リモートコントロール」を選択します。  
WinShare が起動します。

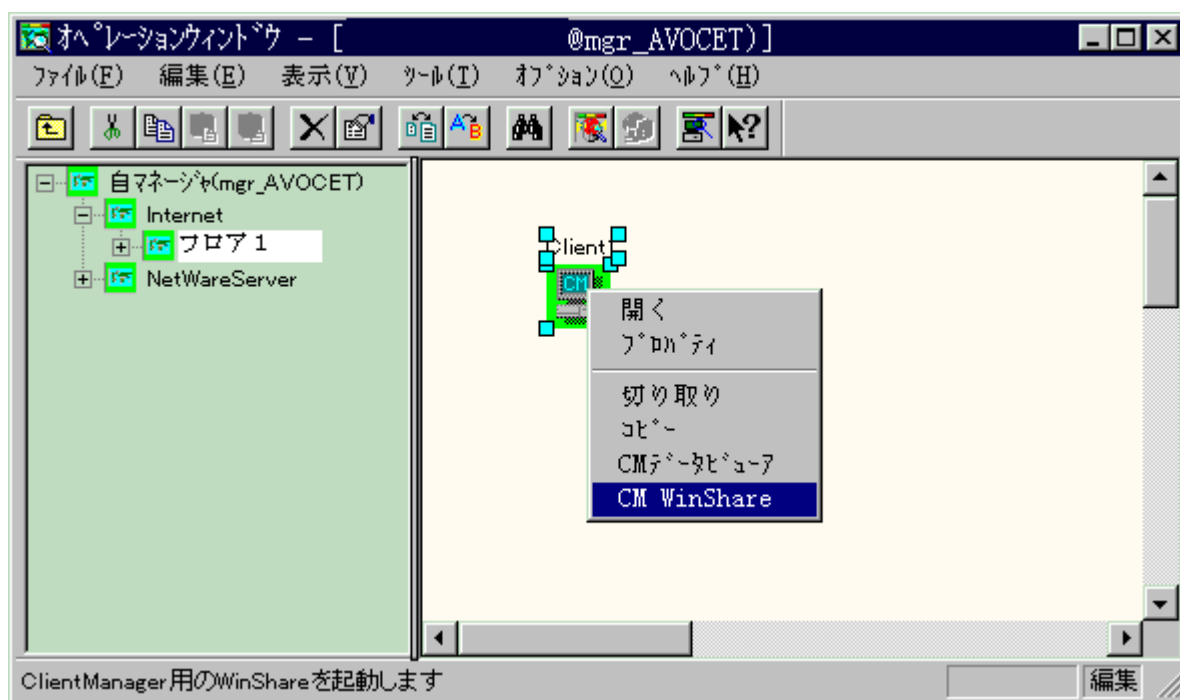


2. クエリの実行結果においてクライアントを選択して WinShare を起動することもできます。  
複数クライアントを選択した場合には、複数WinShareが起動します。



## 9.1.5 オペレーションウィンドウからの WinShare の起動

1. 「オペレーションウィンドウ」を起動し、ClientManagerで管理しているクライアントPCのアイコンを選択し、マウスの右ボタンをクリックし表示されるポップアップメニューから「CM WinShare」を選択することにより、WinShareを起動します。



## 9.2 WinShare の操作

### 9.2.1 メニュー一覧

以下に示すメニューがあります。

メニュー		説明
接続	接続	リモートPCと接続します
	切断	リモートPCとの接続を切断します
	接続履歴表示	リモートPCとの接続履歴を表示します
	リモートPC情報表示	接続中のリモートPCの情報を表示します
	リモートPC接続先管理	接続するリモートPCを登録します
	接続先管理情報インポート	オペレーションPCで接続先管理情報エクスポートした接続先管理情報の出力ファイルをインポートすることができます
	接続先管理情報エクスポート	オペレーションPCで設定した接続先管理情報の情報をファイルに出力します
	WinShareの終了	WinShareを終了します
表示	ツールバー	ツールバーの表示/非表示を選択します
	ステータスバー	ステータスバーの表示/非表示を選択します
	インジケータ	インジケータの表示/非表示を選択します
ファイル	保存	リモートPCの画面イメージをBMPファイルに保存します
	印刷	リモートPCの画面イメージをオペレーションPC側で印刷します
操作	最新画面表示	最新のリモートPCの画面イメージを取得します
	リモート操作抑止	リモートPCでの操作を抑止します
	リモート操作監視	オペレーションPCからの操作を抑止します
	通常操作	両方のPCから操作できます
	IME切り替え	リモートPCのIMEを切り替えます
	システムキーリセット	システムキー不整合が発生の際に整合させます。
	スタートメニュー表示	リモートPCでスタートメニューを表示させます
	CTRL+ALT+DEL送信	CTRL+ALT+DELを送信します
	左端スワイプ	リモートPC側で画面左端からのスワイプを再現します
	下端スワイプ	リモートPC側で画面下端からのスワイプを再現します

	右端スワイプ	リモートPC側で画面右端からのスワイプを再現します
コマンド 実行	ローカルコマンド実行	オペレーションPCで登録コマンド実行します
	リモートコマンド実行	リモートPCで登録コマンドを実行します
	NAVIPAD実行	リモートPCでNAVIPAD(透明ボード)機能を実行します
	ファイル転送	オペレーションPCとリモートPC間でファイル、フォルダの転送を行います
	クリップボードデータ送信	オペレーションPC上のクリップボードデータをリモートPC上のクリップボードに設定します
	クリップボードデータ受信	リモートPC上のクリップボードデータをオペレーションPC上のクリップボードに設定します
	リモートシャットダウン	リモートPCをシャットダウンします
設定	動作設定	動作を変更します
	フルスクリーン表示	PCの解像度が一致したときフルスクリーンで操作できます
	オートズーム表示	ウィンドウの大きさに表示の縮尺を合わせます
ヘルプ	目次	オンラインヘルプの目次を表示します
	バージョン情報	WinShareのバージョン情報を表示します


## 9.2.2 「接続」メニュー

「接続」メニューはリモートPCとの接続に必要な機能や接続の状態を管理する機能が集まったメニューです。

「CMデータビューア」、「CM管理ツール」、「統合ビューア」から利用する場合には、この「接続」メニューは、切断のために使用します。これは、「CMデータビューア」、「CM管理ツール」、「統合ビューア」から起動する場合には接続先は選択済みであり、選択先に自動的に接続するためです。

### 9.2.2.1 「接続」－「接続」

「接続」は、リモートPCと接続することができます。

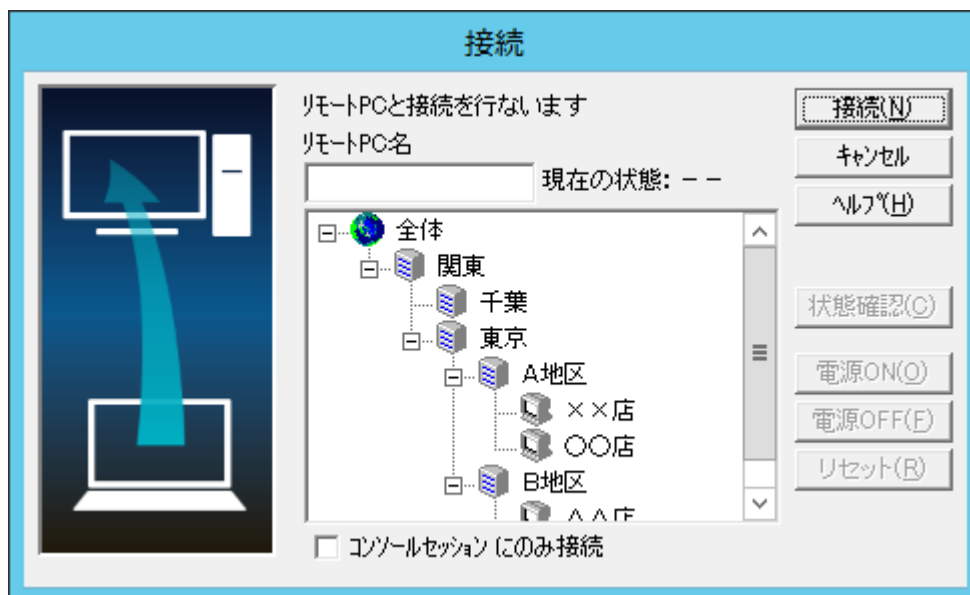
「接続」項目(または、ボタン)を選択すると、以下に示す接続ダイアログが表示されます。

●リモートPCと接続するためには

- 1) 接続するリモートPCのホスト名またはIPアドレスを「リモートPC名」ボックスに入力します。
- 2) 必要に応じて「転送方式」チェックボックスをクリックし選択します。

「圧縮転送を行う」にチェックした場合、リモートPCから送られてくる画面イメージデータはすべて圧縮されます。圧縮は、公衆回線やISDN回線等のように転送速度が遅い回線で有効になる転送方式です。

- 3) 入力したリモートPCに接続する場合は<接続>ボタンをクリックします。接続を中止する場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。



- 4) リモートPC側で「パスワード認証を行う」設定になっている場合は、次に示す「パスワード入力」ダイアログが表示されますので、ユーザ名とパスワードをそれぞれ「ユーザ名」ボックスと「パスワード」ボックスに入力してください。





The image shows a dialog box titled "WinShareパスワードの入力" (WinShare Password Input). It contains a small icon of a computer monitor with a key, a text prompt "リモートPCと接続するためのWinShareパスワードを入力して下さい" (Please enter the WinShare password for connecting to the remote PC), two input fields labeled "ユーザ名" (Username) and "パスワード" (Password), and three buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ(H)" (Help).

入力後、接続する場合は<OK>ボタンをクリックします。接続を中止する場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

5) 入力したユーザ名とパスワードの認証が成功すると、キャンバスにリモートPCの画面イメージが表示されます。

●すでに登録されているリモートPCと接続するためには


- 1) 「リモートPC接続管理」項目で登録したリモートPCと接続するためには、「リモートPC一覧」ツリービューから、接続したいリモートPCを選択して、リモートPC名をダブルクリックします。
- 2) リモートPC側で「パスワード認証を行う」設定になっている場合は、次に示す「パスワード入力」ダイアログが表示されますので、ユーザ名とパスワードをそれぞれ「ユーザ名」ボックスと「パスワード」ボックスに入力してください。

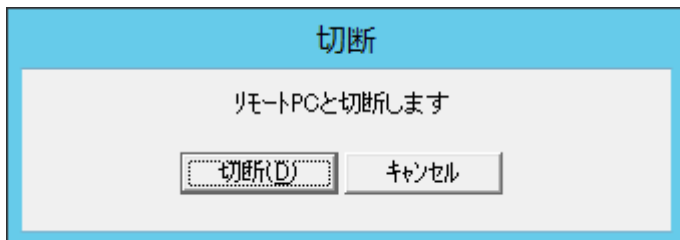
入力後、接続する場合は<OK>ボタンをクリックします。接続を中止する場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

3) 入力したユーザ名とパスワードの認証が成功すると、キャンバスにリモートPCの画面イメージが表示されます。

### 9.2.2.2 「接続」－「切断」

「切断」は、リモートPCとの切断することができます。

「切断」項目(または、 ボタン)を選択すると、以下に示す切断ダイアログが表示されます。




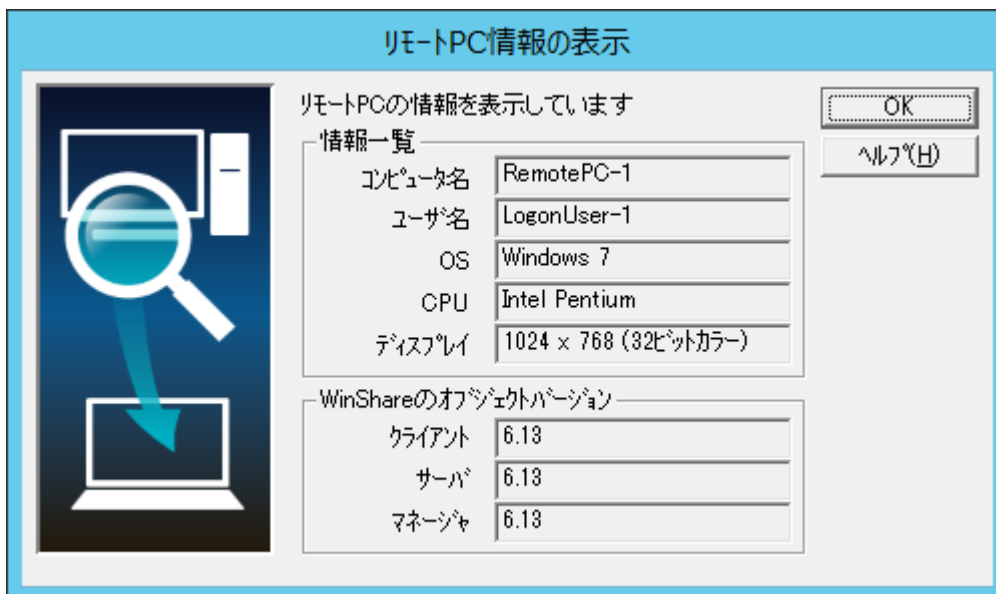
●リモートPCと切断するためには

- 1) 切断したい場合は<切断>ボタンをクリックします。切断を中止する場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

### 9.2.2.3 「接続」－「リモート PC 情報表示」

「リモートPC情報表示」は、リモートPCとの接続情報やリモートPCのシステム情報、リモートPCのWinShareのバージョンを表示することができます。

「リモートPC情報表示」項目(または、 ボタン)を選択すると、以下に示すリモートPC情報表示ダイアログが表示されます。



表示されるリモート情報には以下のようなものがあります。

コンピュータ名	現在接続しているリモートPCのコンピュータ名
ユーザ名	現在接続しているリモートPCにログオンしているユーザ名
OS	現在接続しているリモートPCのOS名
CPU	現在接続しているリモートPCのCPU（プロセッサの種類）
ディスプレイ	現在接続しているリモートPCのディスプレイの解像度とカラービット数

また、WinShareの各オブジェクトの情報も表示されます。

#### 9.2.2.4 「接続」－「リモートPC 接続先管理」

「リモートPC接続先管理」では、接続するためのリモートPCをリモートPC一覧に登録または削除することができます。リモートPC一覧では、リモートPCをツリー構造で管理することができます。また、リモートPC名をユーザの自由な名前でも管理することも可能です。

#### 9.2.2.5 「接続」－「接続先管理情報インポート」

オペレーションPCで接続先管理情報エクスポートした接続先管理情報の出力ファイルをインポートすることができます。

#### 9.2.2.6 「接続」－「接続先管理情報エクスポート」

オペレーションPCで設定した接続先管理情報の情報をファイルに出力します。

## 9.2.3 「表示」メニュー

「表示メニュー」は、ツールバー,ステータスバー,インジケータの表示の設定を行うメニューです。

「表示メニュー」は、以下の機能項目があります。

### 9.2.3.1 「表示」－「ツールバー」

「ツールバーの表示/非表示」は、ツールバーを表示する/表示しないを選択して設定することができます。

### 9.2.3.2 「表示」－「ステータスバー」

「ステータスバーの表示/非表示」は、ステータスバーを表示する/表示しないを選択して設定することができます。

### 9.2.3.3 「表示」－「インジケータ」

「インジケータの表示/非表示」は、インジケータを表示する/表示しないを選択して設定することができます。

インジケータが表示されている場合は、リモートPCから送られてくるデータの受信を開始するとライトが緑色に点灯し、終了するとライトが消えます。

このライトの点滅により、データの受信状態を見ることができます。

## 9.2.4 「ファイル」メニュー

「ファイルメニュー」は、現在のリモートPCの画面イメージをファイルに保存、プリンタに印刷するといった機能が集まったメニューです。

「ファイルメニュー」は、以下の機能項目があります。

### 9.2.4.1 「ファイル」－「保存」

「保存」は、現在のリモートPCの画面イメージビットマップ(.BMP)形式ファイルに保存することができます。

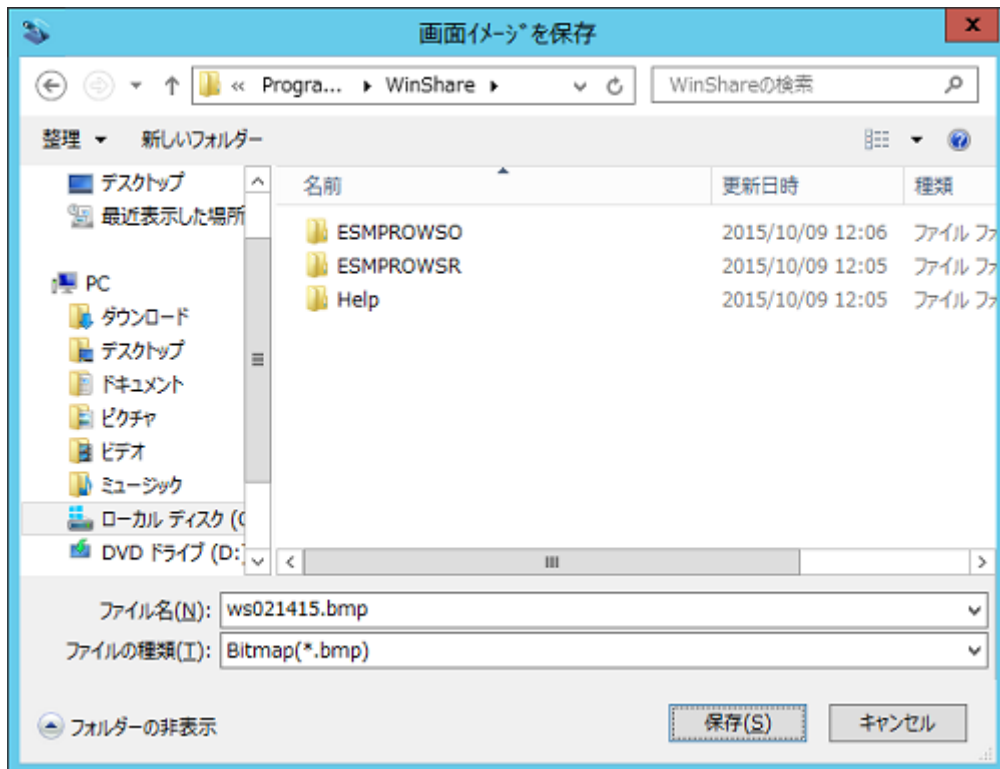
●画面イメージをファイルに保存するためには

1) 画像イメージを保存したいディレクトリを選択します。

2) 画面イメージのファイル名を[ファイル名]ボックスに入力します。

デフォルトのファイル名はWS+現在の日付(2文字)+現在の時刻(4文字)となります。

3) 画面イメージを(1),(2)で指定したディレクトリ、ファイル名で保存する場合は[保存]ボタンをクリックします。保存しない場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。



### 9.2.4.2 「ファイル」－「印刷」

「印刷」は、現在のリモートPCの画面イメージをプリンタへ印刷することができます。

WinShareの「印刷」機能は、自動的に画面イメージを、印刷する用紙のサイズに変更して印刷します。



●画面イメージをプリンタへ印刷するためには

- 1) 画像イメージを印刷するプリンタを「プリンタ名」ボックスで選択します。
- 2) 画面イメージを (1) で指定したプリンタへ印刷する場合は<OK>ボタンをクリックします。  
印刷しない場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

## 9.2.5 「操作」メニュー

「操作メニュー」は、リモートPCに対して遠隔操作を円滑に行う機能が集まったメニューです。

「操作メニュー」は、以下の機能項目があります。

### 9.2.5.1 「操作」－「最新画面表示」

「最新画面表示」は、現在リモートPCに表示されている画面イメージを操作側の要求でオペレーションPCに表示することができます。

### 9.2.5.2 「操作」－「リモート操作抑止」

「リモート操作抑止」は、リモートPCのマウス操作を抑止(できなく)することができます。

「リモート操作抑止」中は、リモートPCでのマウス操作は一切行うことができませんが、オペレーションPCからの遠隔マウス操作は行うことができます。

オペレーションPCから遠隔操作中に、リモートPCでの操作を抑止し、安全に遠隔操作を行うことができます。

「リモート操作抑止」中は、リモートPCの画面上に「リモート操作抑止」中であることを示す赤い枠が表示されます。(枠のプロパティ設定は、リモートPCにインストールされているWinShareユーティリティを使用することで設定することができます。)

### 9.2.5.3 「操作」－「リモート操作監視」

「リモート操作監視」は、オペレーションPCからリモートPCへの遠隔マウス操作、キー入力を抑止(できなく)することができます。

「リモート操作監視」中は、オペレーションPCからの遠隔マウス操作、キー入力は一切行うことができません。リモートPCの画面の監視のみを行うことができます。

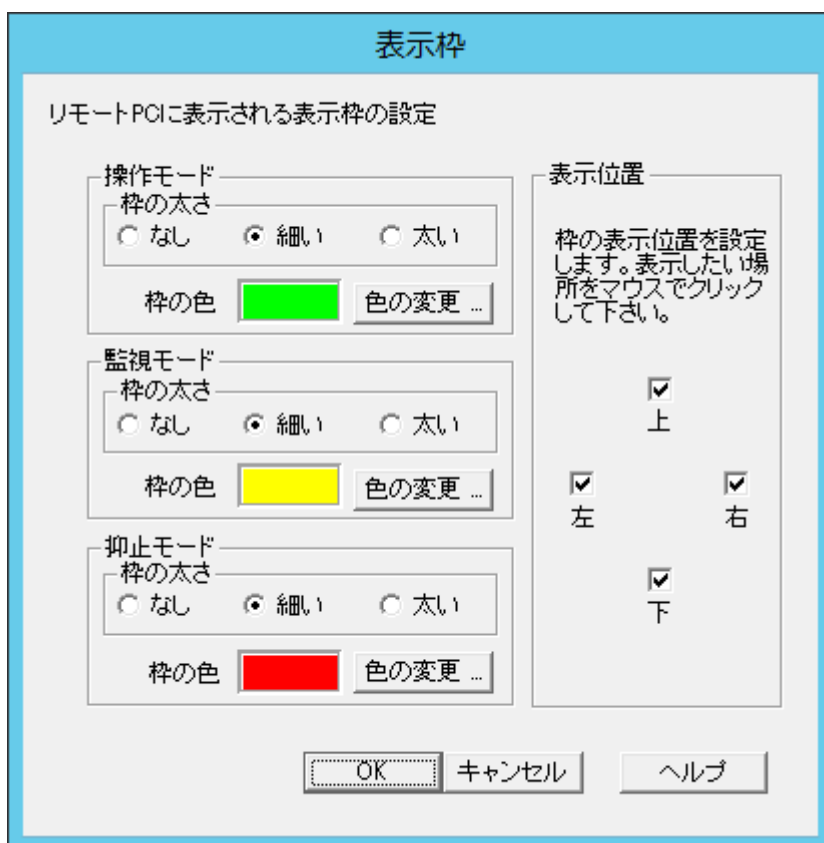
「リモート操作監視」中は、リモートPCの画面上に「リモート操作監視」中であることを示す黄色い枠が表示されます。(枠のプロパティ設定は、リモートPCにインストールされているWinShareユーティリティを使用することで設定することができます。)

### 9.2.5.4 「操作」－「通常操作」

「通常操作」は、オペレーションPCからの遠隔マウス操作、キー入力をリモートPCに対して行うことができます。

「通常操作」中は、リモートPCの画面上に「通常操作」中であることを示す緑枠が表示されます。(枠のプロパティ設定は、リモートPCにインストールされているWinShareユーティリティを使用することで設定することができます。)

枠のプロパティ設定は、リモートPC側にインストールされているWinShare ユーティリティで枠の表示位置や枠の色を自由に設定することができます。



### 9.2.5.5 「操作」－「IME 切り替え」

「IME切り替え」は、リモートPCの日本語入力をオンまたはオフすることができます。遠隔キー入力ですべて日本語(全角文字)入力が必要となった場合に使用します。

### 9.2.5.6 「操作」－「システムキーリセット」

「システムキーリセット」は、オペレーションPCとリモートPCでシステムキーの状態を整合させることができます。システムキー入力ですべて不整合が起きた場合に使用します。

### 9.2.5.7 「操作」－「スタートメニュー表示」

「スタートメニュー表示」は、リモートPCのタスクバーの左端(あるいは上端)にあるスタートボタンを押した動作と同じことを行うことができます。タスクバーが自動的に隠す設定になっているときに便利です。

### 9.2.5.8 「操作」－「CTRL+ALT+DEL 送信」

「CTRL+ALT+DEL送信」は、リモートPCでWindowsにログオンしたり、パスワードロックされたスクリーンセーバを解除したりするとき等に使用する CTRL+ALT+DELキー入力を行うことができます。



### **9.2.5.9 「操作」－「左端スワイプ」**

「左端スワイプ」は、リモートPC側で画面左端からのスワイプを再現します。例えば、リモートPCがWindows Server 2012 R2の場合、アプリ一覧が表示されます。

### **9.2.5.10 「操作」－「下端スワイプ」**

「下端スワイプ」は、リモートPC側で画面下端からのスワイプを再現します。例えば、リモートPCがWindows Server 2012 R2の場合、アプリバーが表示されます。

### **9.2.5.11 「操作」－「右端スワイプ」**

「右端スワイプ」は、リモートPC側で画面右端からのスワイプを再現します。例えば、リモートPCがWindows Server 2012 R2の場合、チャームメニューが表示されます。

## 9.2.6 「コマンド実行」メニュー


「コマンド実行メニュー」は、リモートPCやオペレーションPC上でコマンドを起動したり、リモートPCを再起動させたりする機能が集まったメニューです。

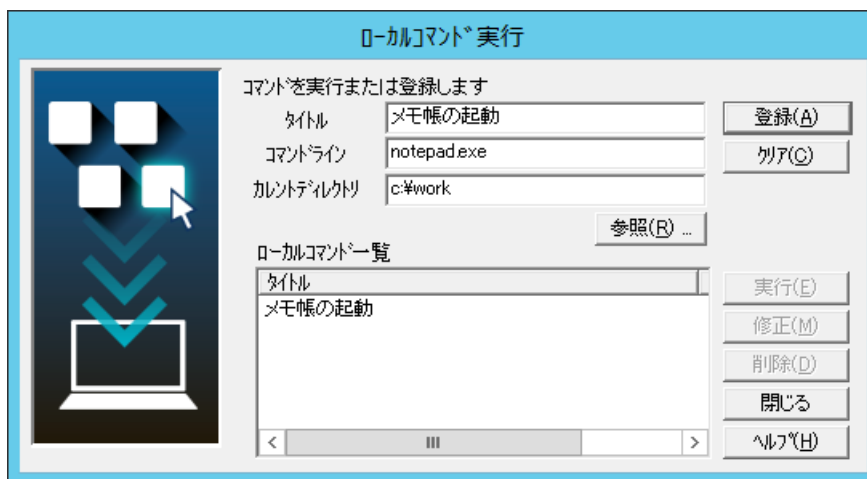
「コマンド実行メニュー」は、以下の機能項目があります。

### 9.2.6.1 「コマンド実行」－「ローカルコマンド実行」

「ローカルコマンド実行」は、WinShareウィンドウからオペレーションPCのコマンドを実行することができます。

WinShareの使用時によく使われるコマンドを登録しておくことで便利です。

「ローカルコマンド実行」項目(または、 ボタン)を選択すると、以下に示すローカルコマンド実行ダイアログが表示されます。



● ローカルコマンドを登録するためには

- 1) 登録するコマンドのタイトルを「タイトル」ボックスに入力します。
- 2) 登録するコマンドのフルパスを「コマンドライン」ボックスに入力します。
- 3) 2) で入力したコマンドの実行するカレントディレクトリを「カレントディレクトリ」ボックスに入力します。「カレントディレクトリ」ボックスに何も入力しない場合は、WinShareのインストールされたディレクトリが自動的に指定されます。
- 4) 1)～3) までで入力した内容を登録する場合は<登録>ボタンをクリックします。入力した内容を初期状態(何も入力されていない状態)に戻すには<クリア>ボタンをクリックします。入力した内容を登録せずにダイアログを閉じる場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。
- 5) 登録が成功した場合は、登録したコマンドのタイトル名がローカルコマンド一覧に表示されます。

#### ✓ アドバイス

コマンドのフルパスとカレントディレクトリをすばやく入力する場合もしくはコマンドのついてあるディレクトリがわからない場合は、<参照 ...>ボタンをクリックしてください。「ファ

イルの参照」ダイアログが表示されますので、登録したいコマンドを探し、そのコマンド名をダブルクリックしてください。ダブルクリック後、コマンド名と実行ディレクトリが自動的に「コマンドライン」ボックスと「カレントディレクトリ」ボックスに入力されます。

●ローカルコマンドを実行するためには

- 1) ローカルコマンド一覧から、実行したいコマンドのタイトルをクリックし選択します。
- 2) タイトルが選択された状態で<実行>ボタンをクリックします。実行せずにダイアログを閉じる場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

●ローカルコマンドを修正するためには

- 1) ローカルコマンド一覧から、修正したいコマンドのタイトルをクリックし選択します。
- 2) タイトルが選択された状態で<修正>ボタンをクリックします。選択したコマンドに設定されているタイトル、コマンドライン、カレントディレクトリがそれぞれ「タイトル」ボックス、「コマンドライン」ボックス、「カレントディレクトリ」ボックスに表示されます。
- 3) 修正したい項目を修正し、<登録>ボタンをクリックします。修正せずにダイアログを閉じる場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

✓ アドバイス


「タイトル」ボックスの内容を変更した場合は、修正とならず新規登録となります。

●ローカルコマンドを削除するためには

- 1) ローカルコマンド一覧から、削除したいコマンドのタイトルをクリックし選択します。
- 2) タイトルが選択された状態で<削除>ボタンをクリックします。削除せずにダイアログを閉じる場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

### 9.2.6.2 「コマンド実行」－「リモートコマンド実行」

「リモートコマンド実行」は、オペレーションPCからリモートPCで指定されたコマンドを実行することができます。

「リモートコマンド実行」項目(または、 ボタン)を選択すると、以下に示すリモートコマンド実行ダイアログが表示されます。




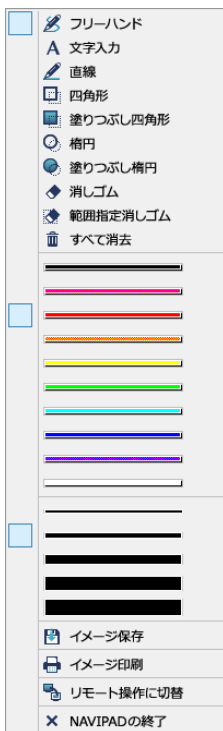
●リモートコマンド実行するためには

- 1) リモートコマンド一覧から、実行したいコマンドの番号をクリックし選択します。
- 2) 選択したコマンドを実行したい場合は<実行>ボタンをクリックします。実行したくない場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。

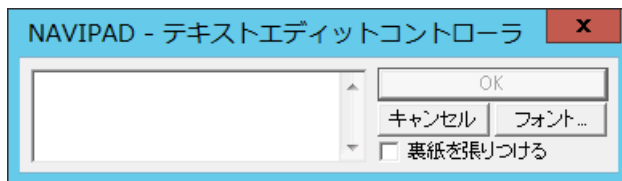
### 9.2.6.3 「コマンド実行」－「NAVIPAD 実行」

「NAVIPAD実行」は、NAVIPAD(透明ボード)を起動するメニュー項目です。NAVIPADは、リモート操作中の画面上に透明なボードを表示し、その透明ボードに対して絵や文字を自由に描くことができる機能です。

「NAVIPAD実行」項目(または、ボタン)を選択すると、NAVIPADが実行されます。NAVIPADを起動し、キャンバス内で右クリックを行うと、以下のメニューが表示されます。



- フリーハンド  
左クリックを行っている間、フリーハンドで絵や文字を描くことができます。
- 文字入力  
テキスト入力した文字列を張り付けることができます。文字列を張り付ける場所を左クリックすると、以下のテキストエディットコントローラが表示されます。「フォント」ボタンを押下することで、フォントの種類やサイズを変更可能です。



- 直線  
左クリックを押した座標を始点、離れた座標を終点とした直線を引くことができます。
- 四角形

左クリックを押した座標と離れた座標を対角とした四角形を描くことができます。

- 塗りつぶし四角形

左クリックを押した座標と離れた座標を対角とした塗りつぶし四角形を描くことができます。

- 楕円

左クリックを押した座標と離れた座標を対角とした四角形の中に収まる楕円を描くことができます。

- 塗りつぶし楕円

左クリックを押した座標と離れた座標を対角とした四角形の中に収まる塗りつぶし楕円を描くことができます。

- 消しゴム

左クリックを行っている間、NAVIPADで描いたものをフリーハンドで消すことができます。

- 範囲指定消しゴム

左クリックを押した座標と離れた座標を対角とした四角形の中に描かれているものをすべて消すことができます。

- すべて消去

NAVIPADで描いたものをすべて消します。

- イメージ保存

NAVIPADで描いたイメージをリモートPC側にファイルで保存することができます。

- イメージ印刷

NAVIPADで描いたイメージをリモートPC側のプリンタに出力することができます。

- リモート操作に切替

NAVIPADを一時的に中断（非表示に）することができます。「戻る」ボタンを押下することで再びNAVIPADが操作できるようになります。



- NAVIPADの終了

NAVIPADを終了します。

#### 9.2.6.4 「コマンド実行」－「ファイル転送」

「ファイル転送」は、オペレーションPCとリモートPC間でファイル、フォルダの転送を行います。  
[ファイル転送]を選択すると、ファイル転送用アプリケーション（WSFT）が起動します。

##### ● ファイル転送の機能

ファイル転送で実現される機能には以下のものがあります。

- ファイル（フォルダ）送信  
オペレーションPC上のファイル（フォルダ）をリモートPCに転送します。
- ファイル（フォルダ）受信  
リモートPC上のファイル（フォルダ）をオペレーションPCに転送します。

##### ✓ 注意

2GBを超えるサイズのファイルを転送することはできません。

※WSFTの詳細については、WSFTのヘルプを参照してください。

#### 9.2.6.5 「コマンド実行」－「クリップボードデータ送信」

「クリップボードデータ送信」は、オペレーションPC上のクリップボードデータをリモートPC上のクリップボードに設定します。

オペレーションPC上のアプリケーションで（[編集]－[切り取り]、[編集]－[コピー]などの操作で）切り取りやコピーしたデータの内容がリモートPC上のアプリケーションから（[編集]－[貼り付け]などの操作で）貼り付けできるようになります。


#### 9.2.6.6 「コマンド実行」－「クリップボードデータ受信」

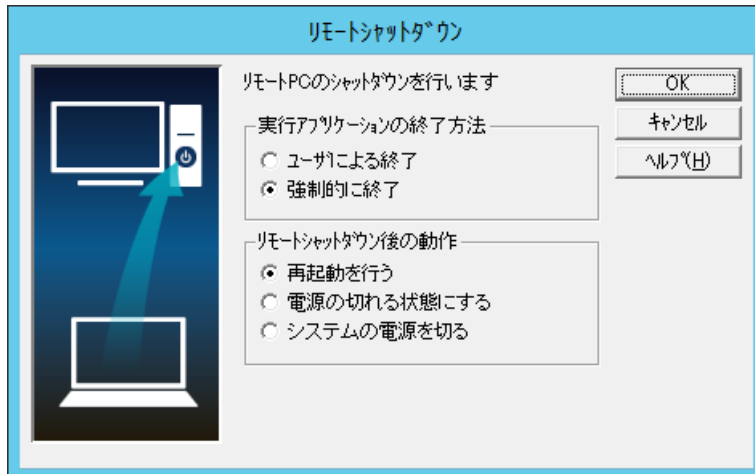
「クリップボードデータ受信」は、リモートPC上のクリップボードデータをオペレーションPC上のクリップボードに設定します。

リモートPC上のアプリケーションで（[編集]－[切り取り]、[編集]－[コピー]などの操作で）切り取りやコピーしたデータの内容がオペレーションPC上のアプリケーションから（[編集]－[貼り付け]などの操作で）貼り付けできるようになります。

### 9.2.6.7 「コマンド実行」－「リモートシャットダウン」

「リモートシャットダウン」は、現在接続されているリモートPCをシャットダウンすることができます。

「リモートシャットダウン」項目(または、 ボタン)を選択すると、以下に示すリモートシャットダウンダイアログが表示されます。



#### ● リモートシャットダウンを行うためには

1) 「実行アプリケーションの終了方法」と「リモートシャットダウン後の動作」を選択します。

「実行アプリケーションの終了方法」

- ・ユーザによる終了 ... リモートPCで動作しているアプリケーションの終了をユーザに確認するようにします。また、リモートPCに「シャットダウンしても良いですか？」のダイアログを表示し、ユーザにシャットダウンの選択を求めます。
- ・強制的に終了 ... リモートPCを強制的にシャットダウンします。

「シャットダウン後の動作」

- ・再起動を行う ... シャットダウン後にリモートPCの再起動を行います。
- ・電源の切れる状態にする ... シャットダウン処理後、リモートPCの再起動を行わず、電源の切れる状態にします。

2) 選択した方法でシャットダウンを行う場合は<OK>ボタンをクリックします。シャットダウンを行わない場合は<キャンセル>ボタンをクリックします。




## 9.2.7 「設定」メニュー

「設定メニュー」は、リモートPCやオペレーションPCの動作変更する機能が集まったメニューです。

### 9.2.7.1 「設定」－「動作変更」

#### (1) 動作変更

「動作変更」は、転送方式の変更、壁紙の表示、オートログアウト時間や更新時間を変更することができます。

「動作設定」項目(または、 ボタン)を選択し、「動作変更」のタグをクリックすると、以下に示す動作設定ダイアログの動作変更シートが表示されます。



項目		説明
転送方式	圧縮転送	公衆回線や ISDN回線等のように転送速度が遅い回線での場合に選択します。画像データは圧縮されて転送されます。
	非圧縮転送	イーサネットのように比較的転送速度が速い回線での場合に選択します。画像データ圧縮はおこなわれません。
壁紙の表示		リモートPC側の壁紙を無地の壁紙に変更します。壁紙が変更されたリモートPCは、切断時または「壁紙を表示する」に変更した場合に、元の壁紙に戻ります。
オートログアウト時間		オペレーションPC側のウィンドウ上で、遠隔操作がおこなわれなくなってから一定時間(ユーザ設定による時間)が経過すると、自動的に切断され、オペレーションPCには切断されたことを示すダイアログボックスが表示されます。オートログア


	<p>ウト時間は1(分)から60(分)までの間で指定することができます。</p> <p>0(分)を指定した場合は、オートログアウトを行わない設定になります。</p>
更新間隔	<p>リモートPCの画面の更新を定期的に監視し、更新があった場合はオペレーションPCのウィンドウに反映します。更新間隔は、0.1(秒)から60.0(秒)までの間で指定することができます。</p>
電源操作履歴	<p>WinShareによる電源操作、状態確認の実行履歴をログに出力するかどうかを選択することができます。[電源操作/状態確認の履歴の取得を行わない]にチェックを入れると、ログの出力は行われません。電源操作履歴のログ出力対象操作は以下の通りです。</p> <p>①WinShareオペレーションGUIの接続画面からの電源操作／状態確認</p> <p>②電源操作コマンド - WSPOWCTLによる電源操作</p> <p>③状態確認コマンド - WSGETSTSによる状態確認</p>

●動作を変更するためには

転送方式の変更，壁紙の表示，オートログアウト時間や更新時間をマウスとキーボードで変更します。変更する場合は[OK]ボタンをクリックします。変更を中止する場合は[キャンセル]ボタンをクリックします。

## (2) 画像変更

「画像変更」は、リモートPCから送られてくる画面イメージの大きさや色数を変更することができます。

「動作設定」項目(または、 ボタン)を選択し、「画像変更」のタブをクリックすると、以下に示す動作設定ダイアログの画像変更シートが表示されます。



項目	説明
大きさ	リモートPCから送られてくる画面イメージの大きさを縮小することにより画面イメージの更新を早くすることができます。
色数	リモートPCから送られてくる画面イメージの色数を減色することにより画面イメージの更新を早くすることができます。

### ●画像を変更するためには

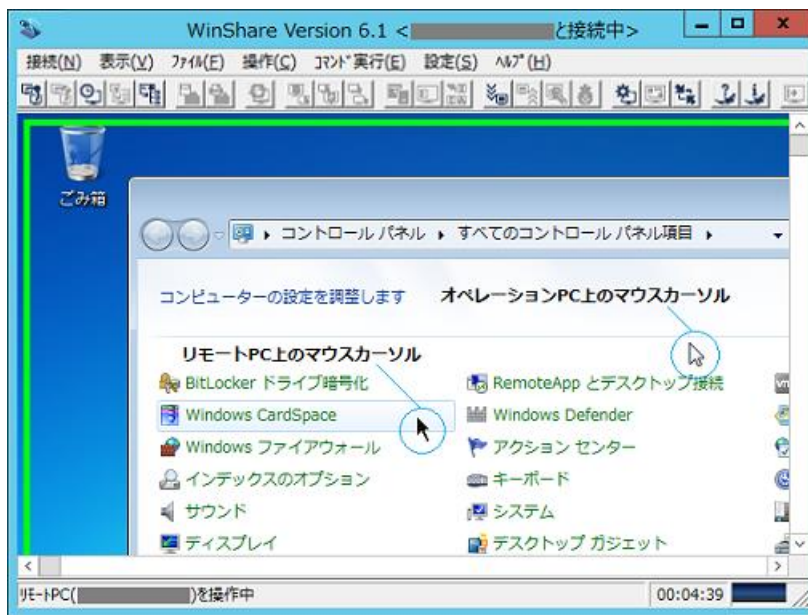
希望する大きさや色数をマウスで設定します。変更する場合は[OK]ボタンをクリックします。変更を中止する場合は[キャンセル]ボタンをクリックします。

### (3) リモートマウス表示の変更

「リモートマウス表示の変更」は、リモートPCのマウス位置をオペレーションPCに表示する/表示しないを変更することができます。

メニューまたはツールバー上の「動作設定」ボタンを選択し、[リモートマウス表示の変更]のタグをクリックすると、以下に示す動作設定ダイアログの画像変更シートが表示されます。

「表示する」に設定した場合、WinShareウィンドウのキャンバス領域にリモートPCのマウス位置が表示されます。



●リモートマウス表示を変更するためには

リモートマウスを表示する場合は、[リモートマウスを表示する]チェックボックスにチェックをつけて[OK]ボタンをクリックします。表示しない場合は、チェックを外します。変更を中止する場合は[キャンセル]ボタンをクリックします。

#### (4) 指示マーク表示操作の変更

「指示マークの変更」は、オペレーションPCで「指示マーク」を使用するときの操作を変更することができます。

メニューまたはツールバー上の「動作設定」ボタンを選択して、[指示マークの変更]のタグをクリックすると、以下に示す動作設定ダイアログの指示マークの変更シートが表示されます。

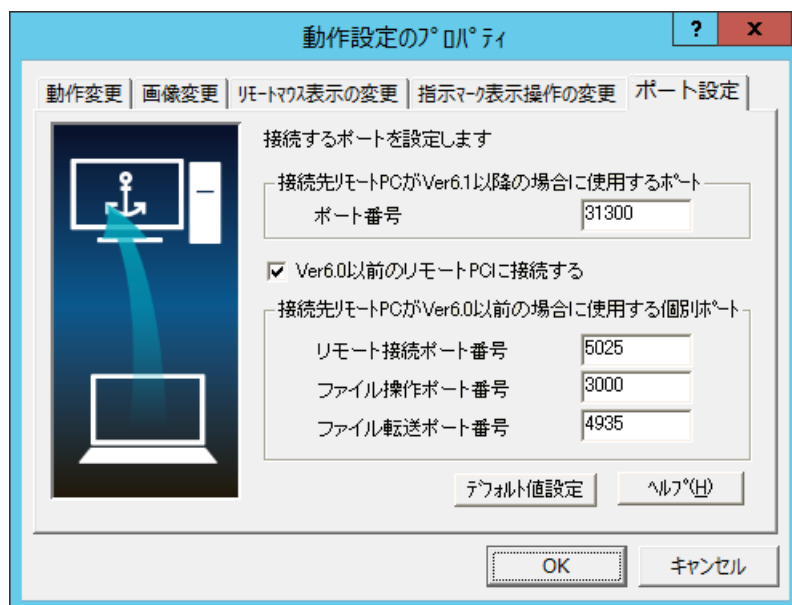


##### ●指示マークを変更するためには

指示マークを使用するときの操作をマウス等で設定します。変更する場合は[OK]ボタンをクリックします。変更を中止する場合は[キャンセル]ボタンをクリックします。

## (5) ポート設定

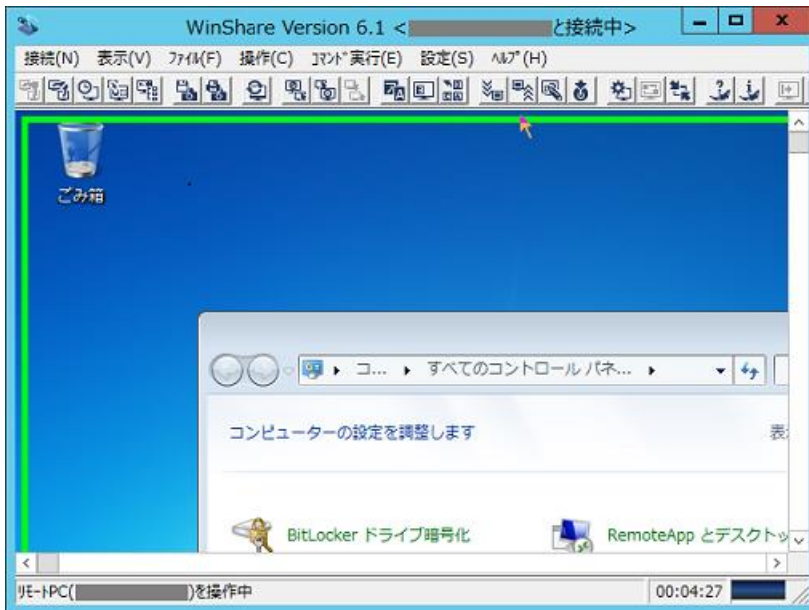
「ポート設定」は、リモートPCに接続する際に使用するポートを設定することができます。メニューまたはツールバー上の「動作設定」ボタンを選択して、[ポート設定]のタグをクリックすると、以下に示す動作設定ダイアログのポート設定シートが表示されます。



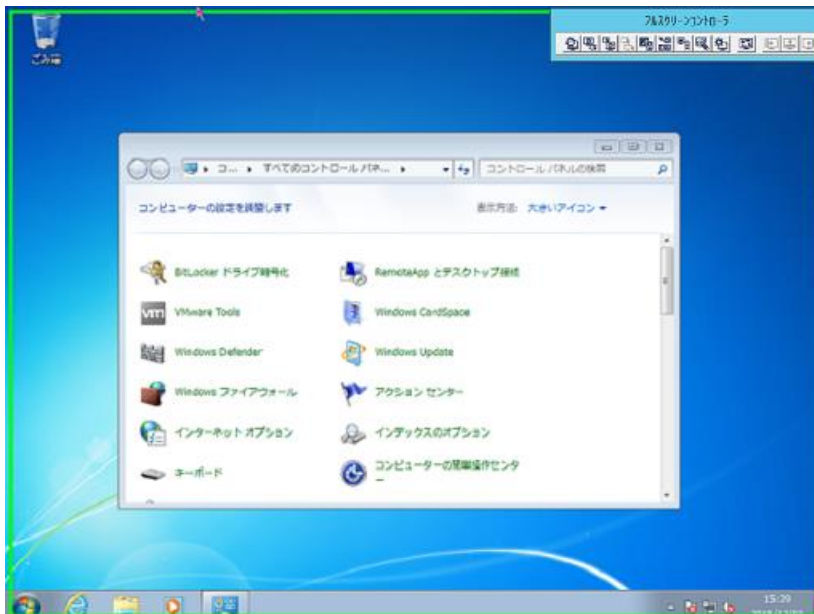
### 9.2.7.2 「設定」－「フルスクリーン表示」

「フルスクリーン表示」は、オペレーションPCの解像度とリモートPCの解像度が同じ場合に、リモートPCの画面イメージを、同じ感覚でオペレーションPCから操作するために、タイトルバーやメニューバー、スクロールバーを付けずに実行することができます。

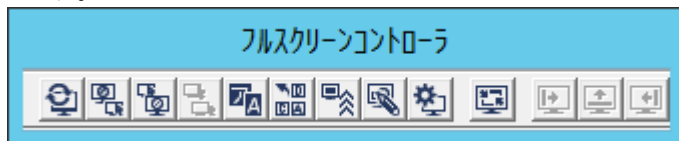
\*通常表示



\*フルスクリーン表示





フルスクリーン表示しているときの各操作は、以下に示す「フルスクリーンコントローラ」を使用して行います。




フルスクリーン表示から通常の大きさに戻す場合は、<元に戻る>ボタンをクリックします。

### 9.2.7.3 「設定」－「オートズーム表示」

「オートズーム表示」は、キャンバスウィンドウの大きさに合わせて、リモートPCの画面イメージを拡大または縮小して表示することができます。


「オートズーム表示」と「通常表示」は、メニューまたはツールバー上のオートズーム表示ボタン (  または  ) で切り替えることができます。

●オートズーム表示を行うには

- 1) ツールバー上の  ボタンをクリックします。
- 2) 拡大または縮小したい画面の大きさにキャンバスウィンドウをリサイズします。
- 3) リサイズしたキャンバスウィンドウに合わせて画面イメージが表示されます。

オートズーム表示中は、「動作設定」の画像変更で大きさを変更することはできなくなります。

●通常表示を行うには

- 1) ツールバー上の  ボタンをクリックします。
- 2) 自動的に通常表示の大きさにキャンバスウィンドウがリサイズし、画面イメージが表示されます。

## 9.2.8 「ヘルプ」メニュー

「ヘルプメニュー」は、WinShareのバージョン情報やヘルプを参照する機能が集まったメニューです。

### 9.2.8.1 「設定」－「目次」

ヘルプを表示します。

### 9.2.8.2 「設定」－「バージョン情報」

現在、使用している WinShareのバージョンを表示します。



## 9.3 WinShare ユーティリティ

WinShareユーティリティは、WinShareの様々な動作を設定するインタフェースを提供します。本章では、WinShareユーティリティの利用方法を説明します。

9.3.1 ユーティリティの起動	WinShareユーティリティの起動について説明します。
9.3.2 接続設定	接続を受けた時の動作を設定します。
9.3.3 アクセスホスト	接続を許可するマシンをアクセスホストとして登録します。
9.3.4 ユーザ管理	WinShareを利用するユーザを登録し、ユーザ毎の操作権限を設定することができます。 登録するリモートコマンドや、表示枠の設定などもユーザ毎に変更することができます。
9.3.5 電源情報設定	電源操作機能（起動、停止、状態参照など）を利用する場合に必要な設定を行います。
9.3.6 ログ設定	WinShareが出力する接続履歴や操作履歴などのログに関する設定を行います。
9.3.7 ポート設定	WinShareが使用するポートの設定を行います。

## 9.3.1 ユーティリティの起動

WinShareユーティリティを使用するためには、**Administrators** グループに所属するユーザで **Windows** にログオンする必要があります。

WinShareユーティリティは、WinShareユーティリティに登録したユーザのみが利用できます。起動時にユーザ名とパスワードを入力するダイアログを出力しますので、WinShareユーティリティのユーザ管理で登録されたユーザ名とパスワードを入力してください。

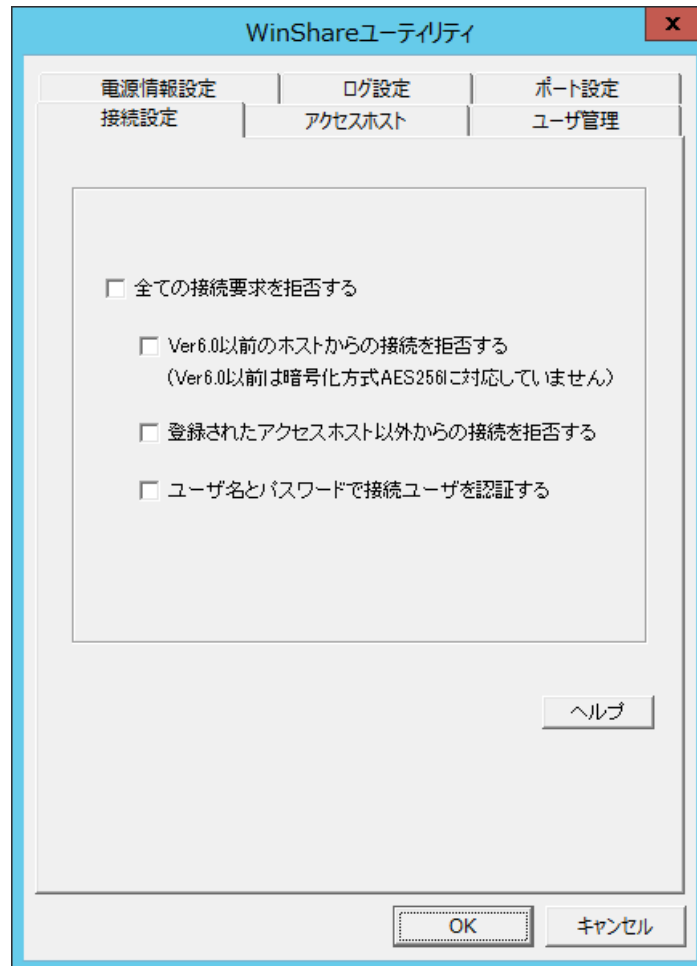


<OK>ボタンをクリックし、ユーザとパスワードが認証されると、WinShareユーティリティが開始されます。中止する場合には、<キャンセル>ボタンをクリックしてください。

## 9.3.2 接続設定

オペレーションPCから接続を受け付けた際の動作を設定します。

WinShareユーティリティの「接続設定」タブをクリックすると以下に示す「接続設定」ダイアログが表示されます。



WinShareでは以下の接続設定を行うことができます。

### ◆ 全ての接続要求を拒否する

全てのオペレーションPCからの接続要求を拒否することができます。メンテナンスの時などに有効です。本項目にチェックが入っている場合、以下の3つの接続設定は無効となります。

#### ● Ver6.0以前のホストからの接続を拒否する

Ver6.0以前のオペレーションPCから接続要求を受けた場合、無条件で接続を拒否します。

Ver6.1以降では、通信内容をAES256で暗号化しています。

Ver6.0以前のオペレーションPCはAES256に対応していないため、通信内容をAES256で暗号化する必要がある場合は本項目を有効にしてください。

#### ● 登録されたアクセスホスト以外からの接続を拒否する

アクセスホストとして登録されているオペレーションPC以外からの接続を無条件で拒否します。接続を許可するアクセスホストは、「アクセスホスト」タブにて登録してください。

- **ユーザ名とパスワードで接続ユーザを認証する**

接続時にユーザ認証を行うかどうかを選択することができます。

接続ユーザ毎に操作設定等をカスタマイズするためには、この機能を有効にする必要があります。詳しくは、「9.3.4 ユーザ管理」を参照してください。

※ 「接続設定」ダイアログで変更した設定内容はWinShareの再起動後に反映されます。

「OK」ボタンを押下すると「再起動確認」ダイアログが表示されますので、

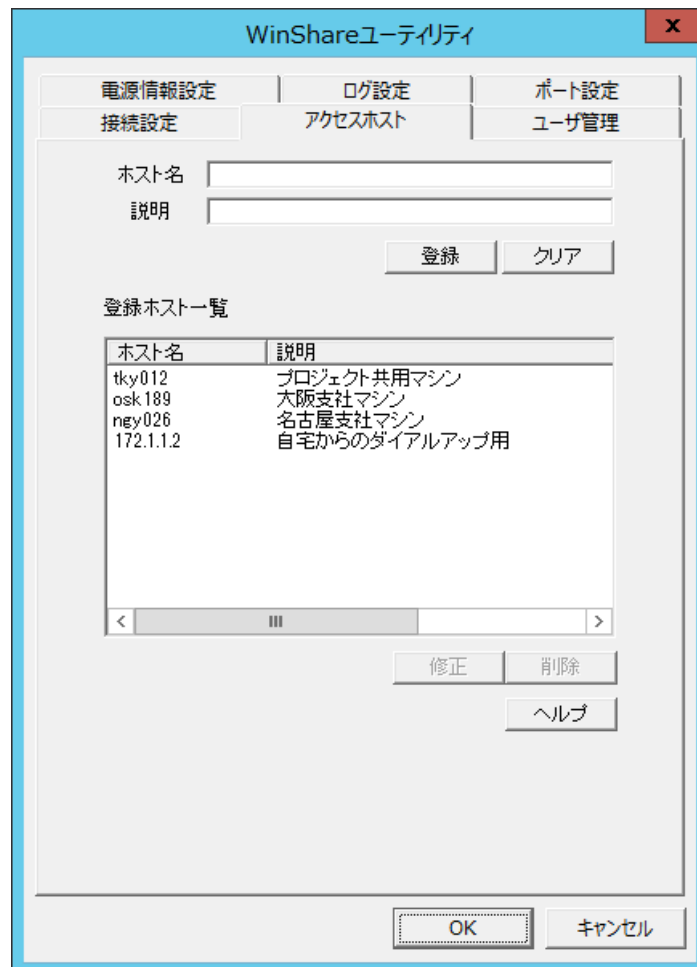
メッセージに従ってWinShareを再起動してください。

### 9.3.3 アクセスホスト

自身への接続を許可するオペレーションPCを登録します。

「接続設定」タブで「登録されたアクセスホスト以外からの接続を拒否する」がチェックされている場合、このアクセスホストに登録されているオペレーションPC以外からの接続は全て拒否します。

WinShareユーティリティの「アクセスホスト」タブをクリックすると以下に示す「アクセスホスト登録」ダイアログが表示されます。



WinShareユーティリティの「アクセスホスト」登録ダイアログのスクリーンショット。ダイアログには「電源情報設定」「ログ設定」「ポート設定」のタブがあり、「接続設定」タブが選択されている。サブメニューには「アクセスホスト」が選択されている。入力欄には「ホスト名」と「説明」があり、「登録」と「クリア」ボタンがある。下部には「登録ホスト一覧」のリストがあり、その下に「修正」「削除」「ヘルプ」ボタンがある。最下部には「OK」と「キャンセル」ボタンがある。

ホスト名	説明
tky012	プロジェクト共用マシン
osk189	大阪支社マシン
ngy026	名古屋支社マシン
172.1.1.2	自宅からのダイヤルアップ用

- **アクセスホストの登録**

ホスト名、説明を入力して「登録」ボタンを押してください。

新しく登録したホスト名が、登録ホスト一覧に追加されます。

ホスト名には、半角 a から z, A から Z の各文字、半角 0 から 9 の各数字、および半角ハイフン'-'の任意の組み合わせを使用してください。

ホスト名にIPアドレスを指定する場合には、オクテット毎にドット'.'で区切った値を入力してください。

「説明」は、省略することができます。必要に応じて、そのホストの説明を入力してください。

すでに登録されているホスト名を入力した場合には、登録されているホストの説明が変更されます。

- **アクセスホストの削除**

登録ホスト一覧から削除したいホスト名をマウスでクリックします。

選択したホスト名が反転表示されます。

「削除」ボタンをクリックすると、選択したホストが削除されます。

- **ホストの登録内容修正**

登録されたホスト名の「説明」を修正します。

登録ホスト一覧から修正したいホスト名をマウスでクリックします。

選択したホスト名が反転表示されます。

「修正」ボタンをクリックすると、選択したホストの内容が、「ホスト名」と「説明」フィールドに表示されますので、「説明」を修正してください。

修正が完了後「登録」ボタンをクリックすると修正後の内容が登録ホスト一覧に表示されます。

修正を中断し、新規にアクセスホストを登録するには、「クリア」ボタンをクリックしてください。

なお、アクセスホストの追加、削除ができるのは、管理者権限のあるユーザのみです。

詳しくは、「9.3.4.2 ユーザのプロパティ」のユーザの権利を参照してください。

※ 一旦削除したホストや登録したホストを「キャンセル」ボタンで取り消すことはできません。

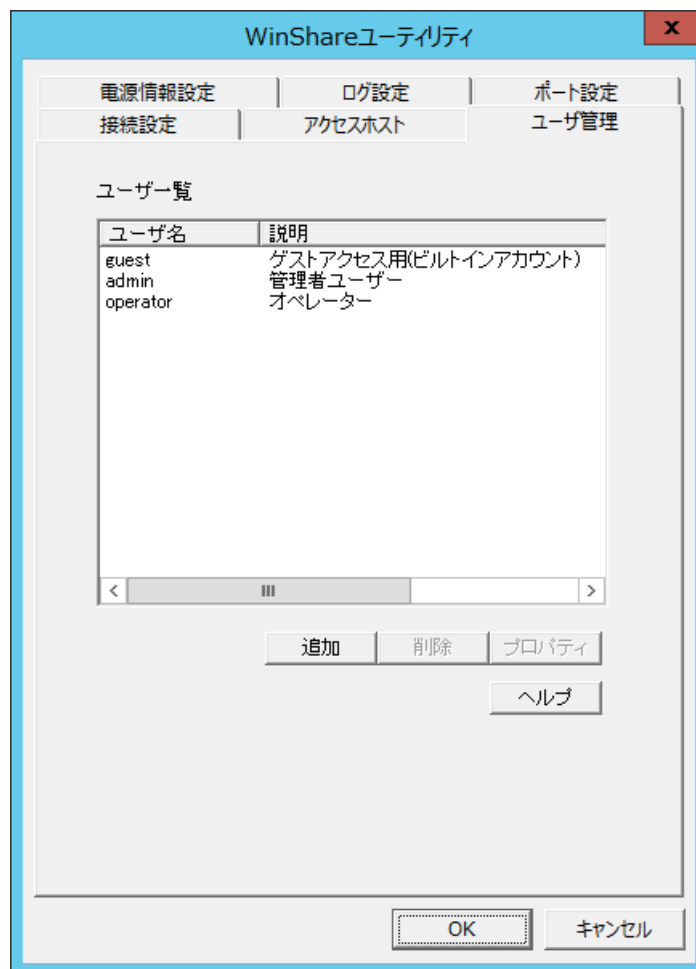
## 9.3.4 ユーザ管理

WinShareを利用する際のユーザを管理します。

ここで管理されているユーザは、次の場合に利用されます。

- ・オペレーションPCからの接続時
- ・WinShareユーティリティの起動時

WinShareユーティリティの「ユーザ管理」タブをクリックすると以下に示す「ユーザ管理」ダイアログが表示され、すでに登録されているユーザが「ユーザー一覧」に表示されます。



### 9.3.4.1 ユーザの追加と削除

WinShareを利用するユーザの追加と削除の方法を解説します。

- ユーザの追加

ユーザ管理ダイアログの「追加」ボタンを押すと、以下に示す「ユーザの追加」ダイアログが表示されます。

The image shows a dialog box titled "ユーザの追加" (Add User). It has a light blue header and a white body. Inside the body, there are four input fields stacked vertically. The first is labeled "ユーザ名" (Username), the second "説明" (Description), the third "パスワード" (Password), and the fourth "パスワードの確認" (Confirm Password). At the bottom of the dialog, there are three buttons: "登録" (Register), "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ" (Help).

追加するユーザの名前と説明、パスワードを入力してください。

パスワードは4文字以上のASCII文字を入力してください。

パスワードは入力文字が表示されないため、確認のために同じパスワードを「パスワードの確認」に入力してください。

なお、説明の入力は省略することができます。

「登録」ボタンを押すとユーザが追加されます。

「キャンセル」ボタンを押すと追加処理を中止します。

既に登録されているユーザ名と同じユーザを追加することはできません。

登録ユーザのパスワードなど、ユーザ情報を変更するには、「9.3.4.2 ユーザのプロパティ」で登録内容を変更してください。

追加されたユーザは、デフォルトでは自身のパスワードが変更できる権限しかありません。

また、操作権などは "guest" ユーザの設定がコピーされます。

必要に応じて、「9.3.4.2 ユーザのプロパティ」で権限を変更してください。

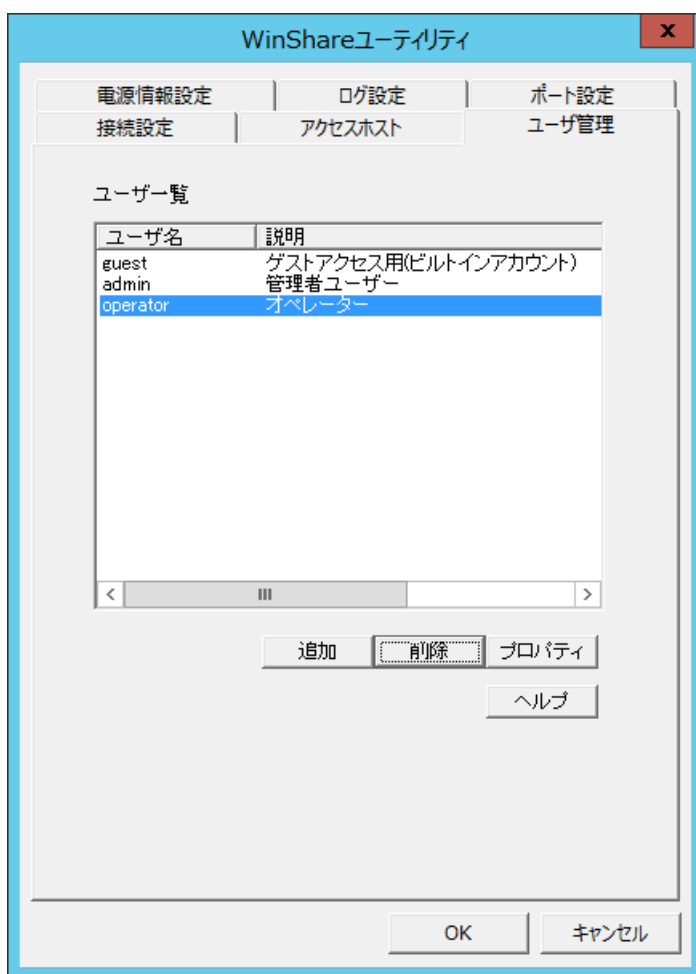
ユーザの権限や操作権に関する説明は、「9.3.4.2 ユーザのプロパティ」を参照してください。

- **ユーザの削除**

ユーザ管理ダイアログにおいて、削除したいユーザをマウスでクリックしてください。

以下に示すように、選択されたユーザが反転表示され、「削除」ボタンが押せるようになります。





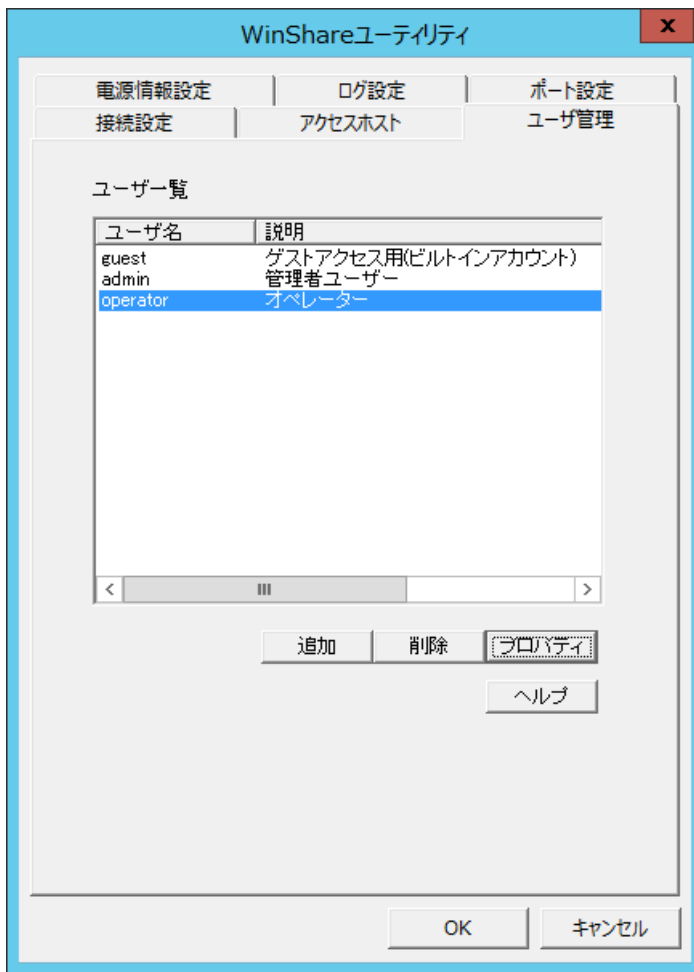
「削除」ボタンを押すと反転表示されているユーザが削除されます。  
なお、「guest」ユーザを削除することはできません。

※一旦削除したユーザや登録したユーザを「キャンセル」ボタンで取り消すことはできません。

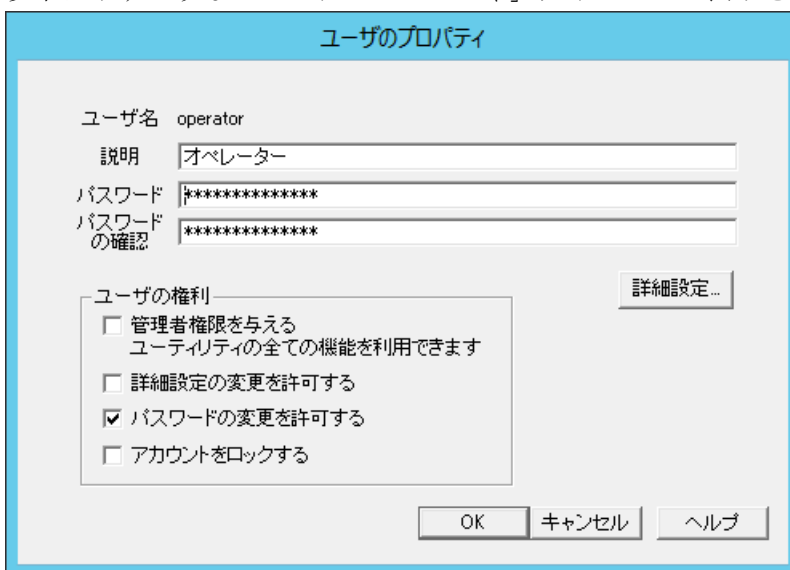
#### 9.3.4.2 ユーザのプロパティ

登録されたユーザのパスワードの変更や、操作権などの設定をカスタマイズします。

対象となるユーザを「ユーザ管理」ダイアログのユーザ一覧から選び、マウスでクリックします。以下に示すようにユーザ名が反転し、「プロパティ」ボタンが押せるようになります。



「プロパティ」ボタンを押してください。  
 以下に示すような「ユーザのプロパティ」ダイアログが表示されます。



「ユーザのプロパティ」ダイアログで変更できる項目は次のとおりです。

- **ユーザの説明**

ユーザ管理ダイアログのユーザ一覧に表示される説明です。

- **パスワード**

接続時および、WinShareユーティリティの起動時に使用されるユーザのパスワードです。  
4文字以上のASCII文字を入力してください。

- **ユーザの権利**

WinShareユーティリティの使用権限を指定します。

- ◇ **管理者権限を与える**

この項目をチェックすると、WinShareユーティリティの全ての機能を利用できるようになります。

また、「詳細設定の変更を許可する」と「パスワードの変更を許可する」が強制的にチェックされます。

- ◇ **詳細設定の変更を許可する**

この項目をチェックすると、WinShareユーティリティにログインしたユーザ自身の接続時の操作設定を変更することができるようになります。

- ◇ **パスワードの変更を許可する**

この項目をチェックすると、ユーザ自身のパスワードおよび説明を変更することができます。

ユーザを追加した直後、追加されたユーザは、この項目のみがチェックされています。

- ◇ **アカウントをロックする**

この項目がチェックされると、ユーザはWinShareユーティリティを使用することができなくなり、オペレーションPCから接続することもできなくなります。

なお、この項目のチェックが外れるまで、他の設定は変更できません。

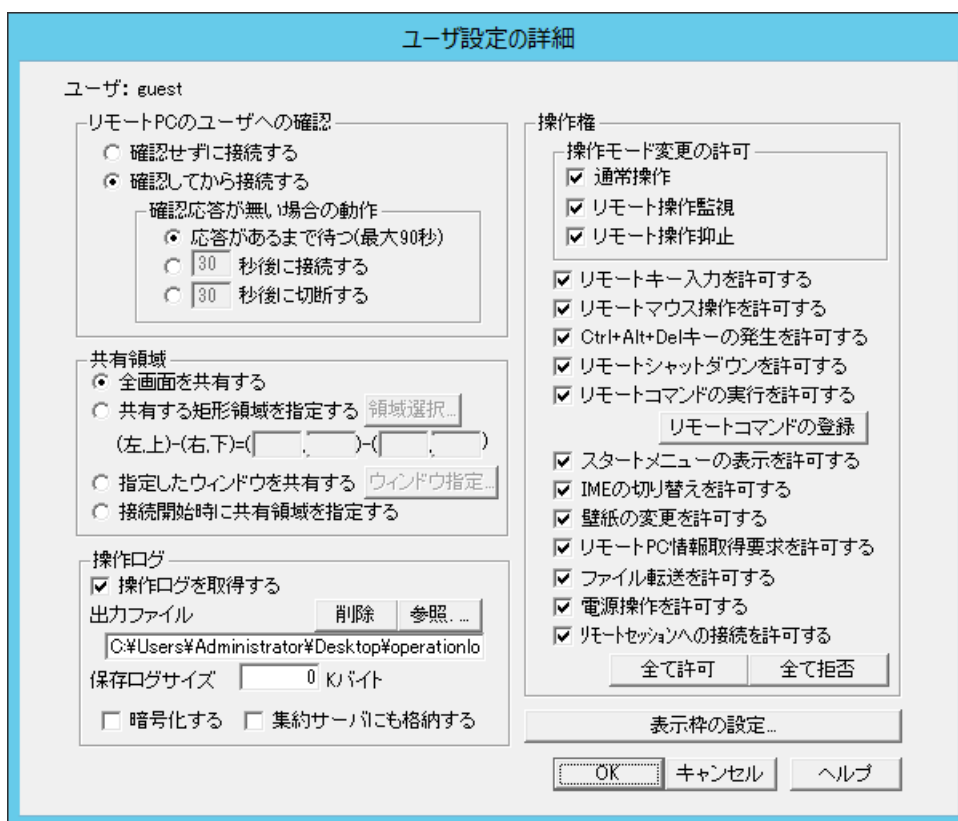
- **接続時の操作設定**

ユーザ毎に接続時の動作をカスタマイズすることができます。

「接続設定」タブにて「ユーザ名とパスワードで接続ユーザを認証する」が選択されていない場合、WinShareはビルトインアカウントである "guest" ユーザの設定で動作します。

「ユーザのプロパティ」ダイアログの「詳細設定」ボタンを押すと、以下のような「ユーザ設定の詳細」ダイアログが表示されます。

このダイアログで設定できる項目については、関連項目を参照してください。



ユーザの説明、パスワードおよびユーザの権利を変更する場合には、「OK」ボタンを押してください。

登録内容を変更せずにユーザのプロパティダイアログを閉じるには、「キャンセル」ボタンを押してください。

※ 詳細設定に関しては、「ユーザ設定の詳細」ダイアログの「OK」ボタンを押下された時点で設定内容が保存されます。

「ユーザのプロパティ」ダイアログの「キャンセル」ボタンで取り消すことはできませんのでご注意ください。

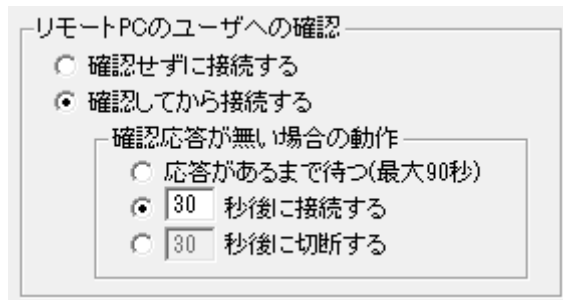
※ Ver6.1以降では、Ver5.3～Ver6.0で存在した「送受信データの暗号化」設定項目がなくなり、全ての送受信データをデフォルトで必ず暗号化する仕様となりました。

### 9.3.4.3 接続時の確認

リモートPCのユーザに対して、オペレーションPCからの接続要求を確認することができます。

「ユーザのプロパティ」ダイアログの「詳細設定」ボタンを押してください。「ユーザ設定の詳細」ダイアログが表示されます。

以下は、「ユーザ設定の詳細」ダイアログの一部です。



「確認してから接続する」をチェックすると、接続要求を受信したリモートPCの画面にダイアログを表示して、接続を許可するかリモートPCのユーザに問い合わせます。

この確認ダイアログは、リモートPCのユーザからの応答が無い場合の動作を次の3通りから選択できます。

- ・ 応答があるまで待つ
- ・ 一定時間後に接続する
- ・ 一定時間後に切断する

「確認せずに接続する」をチェックすると、ダイアログによる確認を省略して接続します。

### 9.3.4.4 共有領域

接続ユーザに対して、共有する画面の領域を限定することができます。

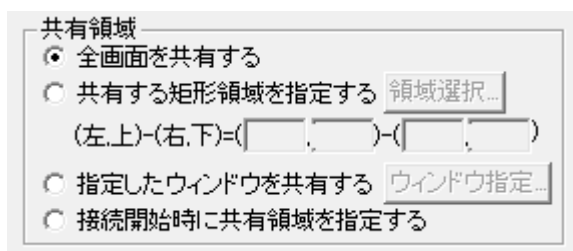
共有領域は次の方式から選択できます。

- **全画面共有**  
リモートPCの全画面を共有します。
- **矩形領域指定共有**  
リモートPCの画面のうち指定した矩形領域だけを共有します。
- **ウィンドウ指定共有**  
リモートPCの画面に表示されているウィンドウのうち指定したウィンドウだけを共有します。

「ユーザのプロパティ」ダイアログの「詳細設定」ボタンを押してください。

「ユーザ設定の詳細」ダイアログが表示されます。

以下は、「ユーザ設定の詳細」ダイアログの一部です。



以降では、各チェックボックスの意味と指定方法を説明します。

- **全画面を共有する**

接続ユーザは常にリモートPCの全画面を共有します。

- **共有する矩形領域を指定する**

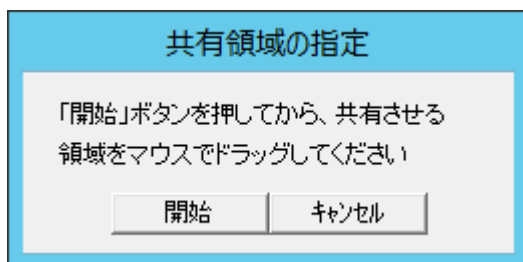
接続ユーザは常にリモートPCの指定された矩形領域のみを共有します。

本項目を選択すると、矩形を入力するフィールドに値が入力できるようになり、また「領域選択」ボタンが押せるようになります。

(左,上)-(右,下)に共有する領域をスクリーン座標で直接入力するか、「領域選択」ボタンを押して領域を選択してください。

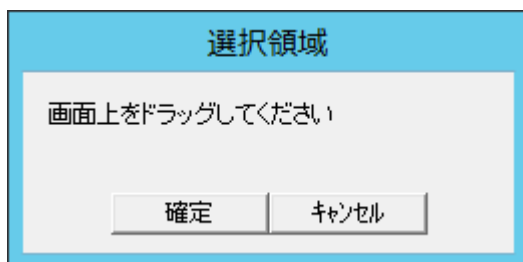
「領域選択」ボタンを押すと、「共有領域の指定」ダイアログが表示されますので、「開始」ボタンを押してください。

「キャンセル」ボタンを押すと矩形領域の選択は中止されます。



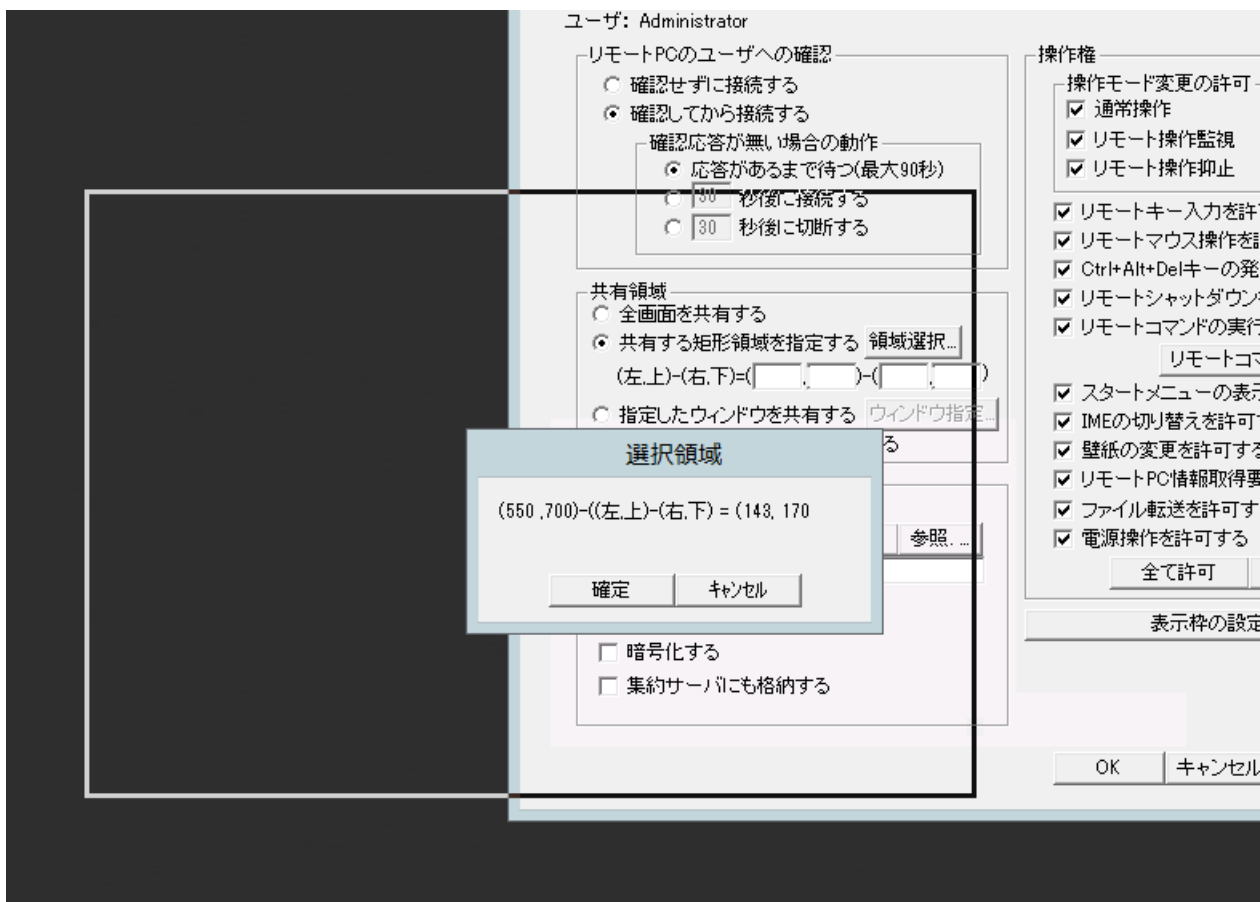
「共有領域の指定」ダイアログで「開始」ボタンを押すと、「選択領域」ダイアログが表示されます。

画面上的共有したい領域をマウスでドラッグしてください。



矩形領域選択中のイメージを以下に示します。

選択中は選択した領域が枠で囲まれ、座標が「選択領域」ダイアログに表示されます。



共有する領域が決定したら、「確定」ボタンを押してください。

「キャンセル」ボタンを押すと、領域選択は中止します。

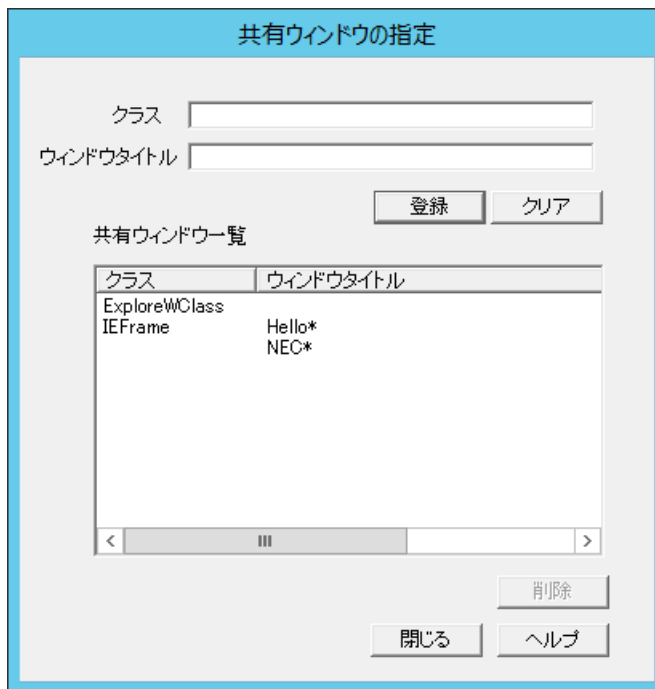
「確定」ボタンを押すと、「ユーザ設定の詳細」ダイアログの共有座標に矩形領域が反映されます。

- **指定したウィンドウを共有する**

接続ユーザは常にリモートPCの指定されたウィンドウのみを共有します。

この項目を選択すると、「ウィンドウ指定」ボタンが押せるようになります。

「ウィンドウ指定」ボタンを押すと、以下に示すような「共有ウィンドウの指定」ダイアログが表示されます。



共有するウィンドウのキャプション（ウィンドウタイトル）とウィンドウクラスを入力してください。

ウィンドウのキャプションとクラスは、どちらか片方を省略することができます。片方を省略した場合は、他方の一致だけを調べます。

「登録」ボタンを押すと入力したクラス、キャプションが登録され、「共有ウィンドウ一覧」に表示されます。

登録されている共有ウィンドウを削除するには、共有ウィンドウ一覧から、削除したい共有ウィンドウをクリックします。

「削除」ボタンを押すと、反転表示している共有ウィンドウが削除されます。

ウィンドウキャプションとクラスには、メタキャラクタ（\*、?）が使用できます。

\*: 任意の文字列

?: 任意の1文字

本例では、次のウィンドウが共有されます。

- ・エクスプローラ
- ・インターネットエクスプローラで表示された、タイトルがHelloで始まるWebページ
- ・タイトルがNECで始まる全てのウィンドウ



※ 「共有ウィンドウの指定」ダイアログで登録、または削除した共有ウィンドウを「ユーザ設定の詳細」ダイアログや、「ユーザのプロパティ」ダイアログの「キャンセル」ボタンで取り消すことはできません。

- **接続開始時に共有領域を指定する**

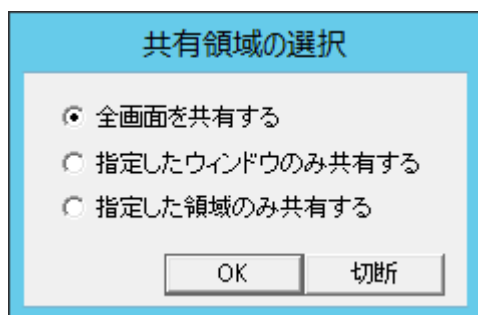
あらかじめ共有方式や、共有領域を決めずに、接続時にリモートPCのユーザが共有方式や領域を指定することができます。

この設定で接続した場合には、リモートPCに「共有領域の選択」ダイアログが表示されます。

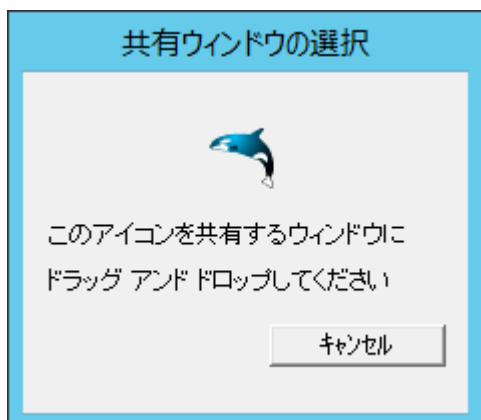
リモートPCのユーザは、共有方法を指定して「OK」ボタンを押してください。

共有させたくない場合は、「切断」ボタンを押してください。

リモートPCのユーザが共有方法を指定するまで接続は開始されません。



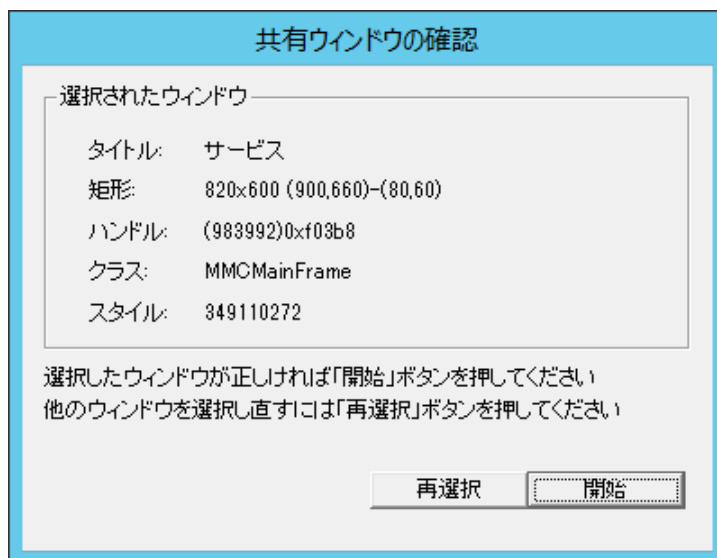
共有領域の選択ダイアログにおいて、「指定したウィンドウのみを共有する」を選択して「OK」ボタンを押した場合には、図4.14の「共有ウィンドウの選択」ダイアログが表示されます。



アイコンを共有するウィンドウにドラッグ アンド ドロップすると、以下のような「共有ウィンドウの確認」ダイアログが表示されます。

選択されたウィンドウが正しければ、「開始」ボタンを押してください。

選択し直すには「再選択」ボタンを押してください。



「共有領域の選択」ダイアログにおいて、「指定した領域のみ共有する」を選択して「OK」ボタンを押した場合のインターフェースは、  
「ユーザ設定の詳細」ダイアログで「領域選択」ボタンを押したときのインターフェースと同じです。

#### 9.3.4.5 表示枠

WinShareによるリモート操作中であることや、WinShareの操作モードを示す、表示枠の色や太さを設定します。

WinShareには以下の3つの操作モードがあり、操作モードを区別するために画面に枠として表示することができます。

- **通常操作モード**

接続してきたオペレーションPCからも、リモートPCからも操作が可能です。

- **リモート操作監視モード**

リモートPCからのみ操作可能です。

接続してきたオペレーションPCからは操作することができません。

- **リモート操作抑止モード**

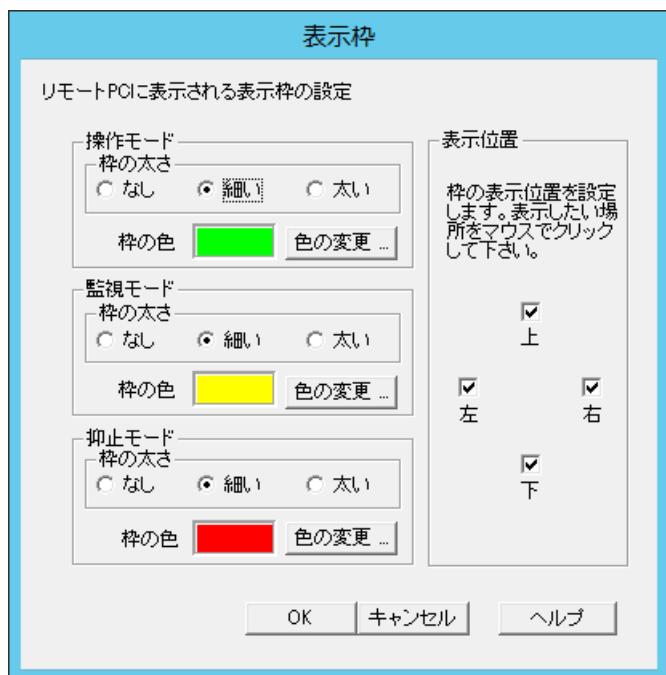
接続してきたオペレーションPCからのみ操作が可能です。

リモートPCからは操作できません。

「ユーザのプロパティ」ダイアログの「詳細設定」ボタンを押してください。

「ユーザ設定の詳細」ダイアログが表示されますので、さらに「表示枠の設定」ボタンを押してください。

以下に示すような、「表示枠」ダイアログが表示されます。共有領域は次の方式から選択できます。



「表示枠」ダイアログでは、それぞれのモードに対して、枠の太さと色を設定することができます。

- **枠の太さ**

「なし」、「細い」、「太い」のいずれかから選択します。  
選択したい太さのラジオボタンをクリックしてください。

- **色**

「枠の色」が表示されている右横の「色の変更」ボタンをクリックすると表示される、「色の設定」ダイアログで変更します。  
好きな色をクリックしてから、「OK」ボタンをクリックしてください。  
色を変更したくない場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

- **表示位置**

枠は画面の上下左右の4辺に表示できます。  
デフォルトの設定では、枠は画面の4辺に表示されますが、上下左右のいずれの辺も消し  
てしまって枠なしにすることも可能です。  
「表示位置」に表示されている、「上」、「下」、「右」、「左」のボタンのチェックさ  
れている部分の枠が表示されます。  
表示/非表示を切り替えたい場合は、切り替えたい枠に対応するボタンをクリックしてくだ  
さい。

※ 内容を保存するには、「OK」ボタンを押してください。保存したくない場合は「キャンセル」ボタンを押してください。

「表示枠」ダイアログを「OK」ボタンで閉じた場合、表示枠の設定を「ユーザ設定の詳細」ダイアログや、「ユーザのプロパティ」ダイアログの「キャンセル」ボタンで取り消すことはできません。

### 9.3.4.6 操作権

接続ユーザに対して、共有時の操作を制限することができます。

制限できる操作は次のとおりです。

- **操作モードの変更**

通常操作モード、リモート操作監視モード、リモート操作抑止モードの各操作モードへの切り替え許可を指定できます。

ただし、最低1つのモードを許可してください。

各操作モードの説明は、表示枠を参照してください。

- **リモートキー入力**

リモートPCへのキー入力を制限できます。

操作モードが通常操作モードやリモート操作抑止モードでもオペレーションPCからのキー入力は無視されます。

- **リモートマウス操作**

リモートPCへのマウス操作を制限できます。

操作モードが通常操作モードやリモート操作抑止モードでもオペレーションPCからのマウス操作は無視されます。

- **Ctrl+Alt+Delキーの発生**

WinShareには、リモートPCに対して「Ctrl+Alt+Del」を発生させる機能がありますが、この機能を制限させることができます。

- **リモートシャットダウン**

WinShareのリモートシャットダウン機能を制限できます。

ただし、マウス操作によって、スタートメニューやWindowsのセキュリティダイアログ等から実行されたシャットダウンは制限されません。

- **リモートコマンドの実行**

登録されたリモートコマンドの実行を制限できます。

リモートコマンドの実行が制限されている場合、オペレーションPCには登録されたリモートコマンドの情報は表示できません。

リモートコマンドの登録については、リモートコマンドを参照してください

- **スタートメニューの表示**

WinShareのスタートメニュー表示機能を制限できます。

ただし、マウス操作によるスタートメニューの表示は制限されません。

- **IMEの切り替え**

WinShareのIME切り替え機能を制限できます。

ただし、マウス操作によるIME切り替えは制限されません。

- **壁紙の変更**

WinShareでは、データ量を減少させるために背景を黒の壁紙に変更する機能がありますが、この機能を制限させることができます。

ただし、マウス操作による、「Windowsの画面のプロパティ」からの壁紙変更を制限することはできません。

- **リモートPC情報の取得**

リモートPCのOSやログオンユーザ名などのシステム情報の取得要求を制限することができます。

- **ファイル転送**

WinShareのファイル転送機能の使用を制限できます。

- **電源操作**

WinShareの電源操作機能の使用を制限できます。

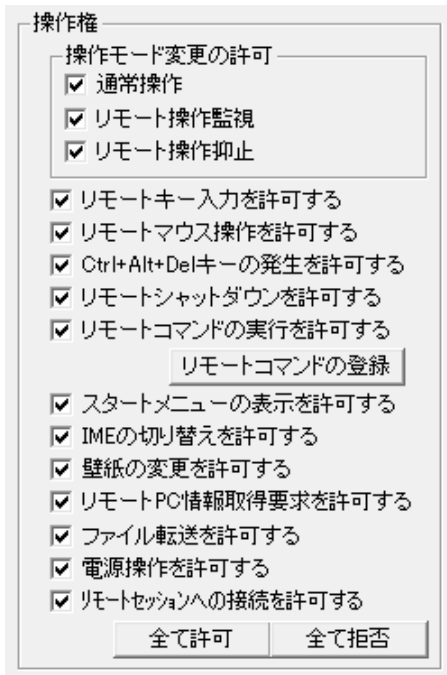
- **リモートセッションへの接続**

コンソールセッション以外のアクティブなセッション（リモートセッション）に対する接続を制限することができます。

本項目のチェックを外すと、コンソールセッションに対する接続のみを許可することになります。

「ユーザのプロパティ」ダイアログの「詳細設定」ボタンを押してください。「ユーザ設定の詳細」ダイアログが表示されます。

以下は、「ユーザ設定の詳細」ダイアログの一部です。



チェックされている項目は、操作が許可されます。  
操作を制限したい項目は、チェックを外してください。

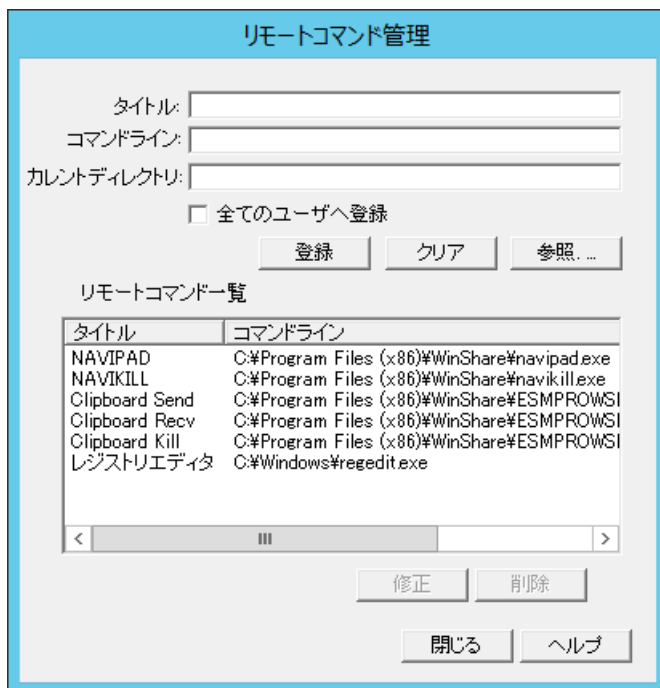
全ての項目を許可する場合には、「全て許可」ボタンを押してください。  
全ての項目を制限する場合には、「全て拒否」ボタンを押してください。  
ただし、「全て拒否」ボタンを押した場合でも、操作モード変更の許可は、リモート操作監視モードが許可された状態になります。

#### 9.3.4.7 リモートコマンド

WinShareを使用した遠隔操作中に、このPCでWinShareから実行されるリモートコマンドを登録することができます。  
ただし、接続ユーザの操作権でリモートコマンドの実行が制限されている場合には、登録されたリモートコマンドを実行することはできません。  
詳細は、操作権を参照してください。

「ユーザのプロパティ」ダイアログの「詳細設定」ボタンを押してください。「ユーザ設定の詳細」ダイアログが表示されますので、操作権のフィールドにある「リモートコマンドの登録」ボタンを押してください。

以下に示す、「リモートコマンド管理」ダイアログが表示されます。



リモートコマンドを登録するには、「リモートコマンド管理」ダイアログのタイトル、コマンドライン、カレントディレクトリを全て入力して「登録」ボタンを押してください。登録時に「すべてのユーザへ登録」が選択されていれば、登録されているすべてのユーザに対して設定されている値をリモートコマンドとして登録します。

「タイトル」は、リモートコマンドの識別記号です。一意なタイトル名を入力してください。また、「参照」ボタンで表示されるファイルの参照ダイアログでファイルを指定することも可能です。

この場合は、タイトルに実行ファイル名、コマンドラインにフルパスのファイル名、カレントディレクトリに実行ファイルの置かれているディレクトリ名が入力されます。

必要に応じて修正してください。

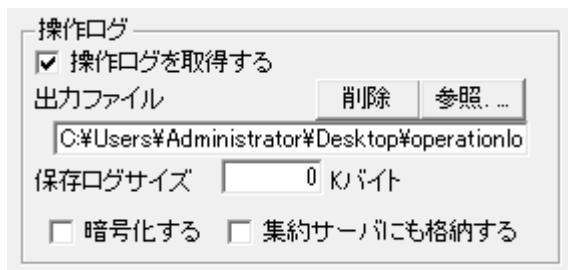
なお、インストール時に登録されている「NAVIPAD」の内容を変更したり、削除するとオペレーションPCの「NAVIPADボタン」が利用できなくなる場合がありますので、ご注意ください。

※ 「リモートコマンド管理」ダイアログを閉じて「ユーザ設定の詳細」ダイアログに戻るには、「閉じる」ボタンをクリックしてください。

ただし、「リモートコマンド管理」ダイアログで登録、修正、または削除したリモートコマンドを「ユーザ設定の詳細」ダイアログや、「ユーザのプロパティ」ダイアログの「キャンセル」ボタンで取り消すことはできません。

### 9.3.4.8 操作ログ

リモート操作中のリモートマウス、リモートキー操作の履歴をユーザ毎に残すための設定を行います。



- **操作ログを取得する**

本項目にチェックを入れることで、該当ユーザの操作ログが取得されるようになります。

「出力ファイル」欄にフルパスでファイル名を入力してください。

「参照」ボタンを押下してファイルを指定することも可能です。

「保存ログサイズ」を "1 Kバイト" 以上の値に設定すると、指定されたサイズ以下になるように自動で古いログから順に削除するようになります。

"0 Kバイト" を指定した場合、ログサイズは自動的に調整されません。

上記の例では、操作ログは "1024Kバイト" 以下に自動調整されます。

「削除」ボタンをクリックすると、ログファイルが削除されます。

- **暗号化する**

本項目にチェックを入れると、ログを暗号化した上でファイルに出力します。

なお、既に該当ユーザの操作ログを採取している状態で、「出力ファイル」欄を変更せずに「暗号化する／しない」の設定を切り替えた場合、

既に採取しているログファイルは同一フォルダに以下の命名規則で退避されます。

◇ 暗号化する ⇒ 暗号化しない に切り替えた場合：YYYYMMDDhhmm\_Encrypt\_元のログファイル名

◇ 暗号化しない ⇒ 暗号化する に切り替えた場合：YYYYMMDDhhmm\_Plain\_元のログファイル名

ログの暗号化に関する設定は「ログ設定」タブの「ログの暗号化設定」にて行います。

なお、暗号化されたログは、「ログ復号コマンド」を用いて復号することで内容を確認することが可能です

- **集約サーバにも格納する**



本項目にチェックを入れると、ログファイルをリモートPCから接続可能な任意のサーバ上にも格納します。

集約サーバへのログの格納に関する設定は「ログ設定」タブの「集約サーバの設定」にて行います。

## 9.3.5 電源情報設定

電源操作機能（起動、停止、状態参照など）を利用する場合に必要な設定を行います。

WinShareユーティリティの「電源情報設定」タブをクリックすると図5に示す「電源情報設定」ダイアログが表示され、すでに登録されている電源情報が表示されます。

IPアドレス	MACアドレス	サブネットマ
192.168.248.22	00-50-56-BF-0E-1F	255.255.240.0

- **AMT**

AMTは「インテル アクティブ・マネジメント・テクノロジー」の略です。

設定を行うことで、AMTがサポートされたWinShareリモートPCの電源ON、電源OFF、リセットなどの電源操作機能が利用可能になります。

以降の説明に従って「ホスト名/IPアドレス」、「ユーザ名」、「パスワード」の設定を行ってください。

なお、AMTを利用した電源制御を行うためには、AMTが搭載されたWinShareリモートPCにて予めAMTのプロビジョニング（事前設定）を行う必要があります。

詳細については「9.3.5.1 AMTのプロビジョニング」を参照してください。

- ◇ **追加**

NICの情報を登録します。

「追加」ボタンを押すと表示される「追加」ダイアログにて情報を登録してください。

- **IPアドレス**

IPアドレスを指定します。

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で、0～255の10進数を「.（ドット）」で区切って指定してください（例：192.168.1.1）。

- **MACアドレス**

MACアドレスを指定します。

XX-XX-XX-XX-XX-XX または XX:XX:XX:XX:XX:XX の形式で、2ケタの16進数を「:（コロン）」または「-（ハイフン）」を区切り文字にして指定してください（例：D4-3D-7E-84-C5-13）。

- **サブネットマスク**

サブネットマスクを指定します。

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で、0～255の10進数を「.（ドット）」で区切って指定してください（例：255.255.255.0）。

- ◇ **更新**

登録済のNICの情報を更新します。

登録済みのNIC情報の一覧から更新するNIC情報を選択し、「更新」ボタンを押すと、「更新」ダイアログが表示されます。

「更新」ダイアログにて情報を更新してください。

- ◇ **削除**

登録済みのNIC情報の一覧から削除するNIC情報を選択し、「削除」ボタンを押すと、選択したNIC情報が削除されます。

- ◇ **再取得**

ローカルマシンに搭載されているNICの情報を自動取得し、WOL情報の一覧に反映させます。

それまで設定していた情報は上書きされます。

- **電源操作にWinShare認証を必要とする**

電源操作（電源ON、電源OFF、リセット）を行う際に、ユーザ認証を必要とするかどうかを設定します。

2.接続設定にて、「ユーザ名とパスワードで接続ユーザを認証する」と設定している場合、本項目を有効にすることで、電源操作を行う際にもユーザ認証が必要になります。

### **9.3.5.1 AMT のプロビジョニング**

「9.4.10 ATMのプロビジョニング方法」を参照願います。

## 9.3.6 ログ設定

接続履歴やリモート操作履歴、リモートコマンドの実行履歴など、WinShareが出力するログの設定を行います。

WinShareユーティリティの「ログ設定」タブをクリックすると、図6.1に示す「ログ設定」ダイアログが表示されます。

このダイアログでは、各ログの共通設定を行います。

The screenshot shows the 'WinShareユーティリティ' dialog box with the 'ログ設定' tab selected. The 'ログの暗号化設定' section has the checkbox '復号用パスワードを設定する' unchecked. The '集約サーバの設定' section has '出力フォルダ' set to '#server#winsarelog#', 'ユーザ名' set to 'user', and 'パスワード' set to '\*\*\*\*\*'. The 'ヘルプ' button is visible at the bottom right of the main content area.

- ログの暗号化設定

「9.3.4.8 操作ログ」や、「9.3.6.1 出力するログの選択」の設定にて、「暗号化する」にチェックが入っている場合は、こちらの設定に従って暗号化されたログが出力されます。暗号化されたログは「9.3.6.2 ログ復号コマンド」を用いて複合することで内容を閲覧できるようになります。

- ◇ 復号用パスワードを設定する

暗号化されたログを「9.3.6.2 ログ復号コマンド」で復号する際、パスワードを必要とするかどうかを設定します。

本項目を有効にする場合は、「パスワード」欄に復号用のパスワードを入力してください。

「パスワード」欄に何も入力されていない場合、本項目を有効にしてもパスワードは設定されません。

「表示」ボタンを押下すると、現在設定されているパスワードが表示されます。

- **集約サーバの設定**

「9.3.4.8 操作ログ」や、「9.3.6.1 出力するログの選択」の設定にて、「集約サーバにも格納する」にチェックが入っている場合は、こちらの設定に従ってログが集約サーバにも保存されます。

なお、集約サーバは、NT LM 0.12をサポートしているファイル共有サーバ、もしくはネットワークドライブに割り当て可能なファイル共有サーバである必要があります。

- ◇ **出力フォルダ**

ログを出力する任意のサーバの格納フォルダをUNC形式（例：¥¥Server¥WinShare Log¥）で指定してください。

ここで指定された「出力フォルダ」配下には、以下の通りフォルダが自動で作成されます。

<出力フォルダ>¥<リモートPCごとのフォルダ>¥<ログ種別ごとのフォルダ>¥

- **リモートPCごとのフォルダ**

リモートPCごとに、「リモートPCのホスト名\_リモートPCのIPアドレス」というフォルダが作成されます。

- **ログ種別ごとのフォルダ**

ログ種別ごとに以下の名前でフォルダが作成されます。

また、ログが集約サーバに格納されるタイミングはログ種別ごとに異なります。

ログ種別	フォルダ名	ログが格納されるタイミング
接続ログ	CNN	リモート操作終了時
セキュリティログ	ACC	リモート操作終了時
コマンド実行履歴ログ	CMD	リモート操作終了時
ファイル転送ログ	FTR	ファイル転送終了時
操作ログ	OPE¥<ユーザ名>	リモート操作終了時

操作ログについては、ログ種別ごとのフォルダ（OPE）配下に、さらにユーザごとのフォルダが作成されます。

ログ出力フォルダの構成例は以下の通りです。

¥¥Server¥WinShareLog¥RemotePC\_129\_168\_1\_1¥ACC¥Security.log

¥¥Server¥WinShareLog¥RemotePC\_129\_168\_1\_1¥OPE¥Admin¥Operation.log

◇ ユーザ名

「出力フォルダ」欄で指定したフォルダにアクセスするためのユーザ名を入力してください。

◇ パスワード

「出力フォルダ」欄で指定したフォルダにアクセスするためのパスワードを入力してください。

「接続テスト」ボタンを押下すると、ここで設定した出力フォルダに接続可能かどうかを確認することができます。

● 出力するログの選択

WinShareが出力するログを選択します。

詳細は「9.3.6.1 出力するログの選択」を参照してください。

※「ログ設定」ダイアログで変更した設定内容はWinShareの再起動後に反映されます。

「OK」ボタンを押下すると「再起動確認」ダイアログが表示されますので、メッセージに従ってWinShareを再起動してください。

### 9.3.6.1 出力するログの選択

WinShareで記録できるログには以下の5種類があります。

1. 接続ログ

WinShareの接続や切断に関するログを記録します。

2. セキュリティログ

接続時のユーザ認証やWinShareユーティリティ起動時のユーザ認証の成功可否など、セキュリティに関するログを記録します。

3. コマンド実行履歴ログ

「リモートコマンド」に登録されているコマンドの実行履歴を記録します。

4. ファイル転送ログ

オペレーションPCとどのようなファイルを送受信したかというログを記録します。

5. 操作ログ

マウス操作やキー入力などの操作に関するログをユーザ毎に記録します。

そのため、操作ログの出力設定は、「ユーザのプロパティ」の「操作ログ」で行います。

「ログ設定」ダイアログの「出力するログの選択」ボタンをクリックすると、以下に示す「出力するログの選択」ダイアログが表示されます。

出力するログの選択

接続ログ

接続ログを採取する

出力ファイル C:\Program Files (x86)\WinShare#wconnect

保存ログサイズ 8192 Kバイト 削除 参照...

暗号化する  集約サーバにも格納する

セキュリティログ

セキュリティログを採取する

出力ファイル

保存ログサイズ Kバイト 削除 参照...

暗号化する  集約サーバにも格納する

コマンド実行履歴ログ

コマンド実行履歴ログを採取する

出力ファイル

保存ログサイズ Kバイト 削除 参照...

暗号化する  集約サーバにも格納する

ファイル転送ログ

ファイル転送ログを採取する

出力ファイル

保存ログサイズ Kバイト 削除 参照...

暗号化する  集約サーバにも格納する

OK キャンセル ヘルプ

- ログを採取する

本項目にチェックを入れることで、各種ログが取得されるようになります。

「出力ファイル」欄にフルパスでファイル名を入力してください。

「参照」ボタンを押下してファイルを指定することも可能です。

「保存ログサイズ」を "1 Kバイト" 以上の値に設定すると、指定されたサイズ以下になるように自動で古いログから順に削除するようになります。

"0 Kバイト" を指定した場合、ログサイズは自動的に調整されません。

本例では、接続ログは "8192Kバイト" 以下に自動調整されます。

「削除」ボタンをクリックすると、「出力ファイル」欄に入力されているログファイルが削除されます。

- 暗号化する

本項目にチェックを入れると、ログを暗号化した上でファイルに出力します。



既に各種ログを採取している状態で、「出力ファイル」欄を変更せずに「暗号化する／しない」の設定を切り替えた場合、

既に採取しているログファイルは同一フォルダに以下の命名規則で退避されます。

◇ 暗号化する ⇒ 暗号化しない に切り替えた場合：YYYYMMDDhhmm\_Encrypt\_元のログファイル名

◇ 暗号化しない ⇒ 暗号化する に切り替えた場合：YYYYMMDDhhmm\_Plain\_元のログファイル名

ログの暗号化に関する設定は「ログ設定」タブの「ログの暗号化設定」にて行います。

なお、暗号化されたログは、「ログ復号コマンド」を用いて復号することで内容を確認することが可能です。

- **集約サーバにも格納する**

本項目にチェックを入れると、ログファイルをリモートPCから接続可能な任意のサーバ上にも格納します。

集約サーバへのログの格納に関する設定は「ログ設定」の「集約サーバの設定」にて行います。

### 9.3.6.2 ログ復号コマンド (WSDECODLOG)

暗号化されたログファイルは、ログ復号コマンド (WSDECODLOG) を用いて復号することで中身を閲覧できるようになります。

復号したログファイルは、「YYYYMMDDhhmm\_Decrypt\_元のログファイル名」という名前で復号対象のログファイルと同一フォルダに出力されます。

出力フォルダにすでに同一名のファイルが存在する場合は上書きされます。

#### コマンド名

WSDECODLOG

#### 形式1

- 書式

```
WSDECODLOG [ /password password ] [ /nomsg ] logfile1 logfile2 ...
```

- []は省略可能、イタリック文字はユーザ指定文字列を示します。
- オプションの重複指定はエラーになります。
- オプションを示す文字は"/" (スラッシュ) もしくは "-" (ハイフン) を利用することが可能です。
- オプションの大文字と小文字の区別はしません。

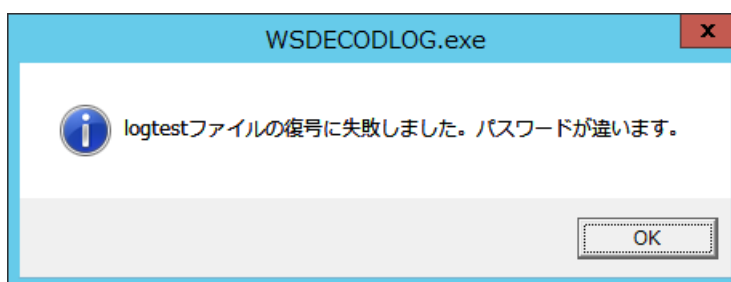
- オプション一覧

オプション	説明
/password パスワード	復号用のパスワードを指定します。 復号用パスワードを設定せずに暗号化されたログファイルを復号する場合は省略可能です。 復号用パスワードを設定しているログファイルが指定され、かつ /password オプションが指定されなかった場合は、「パスワード入力」ダイアログが表示されます。
/nomsg	本オプションを指定した場合、異常終了しても「エラーメッセージ」ダイアログが表示されません。
なし	暗号化されたログファイルを指定します。 半角スペースで区切り、複数のログファイルを指定することができます。

[パスワード入力ダイアログ]



[エラーメッセージダイアログ]



- 戻り値一覧

戻り値	説明
0	正常終了を表します。
0以外 (結果コード)	異常終了を表します。 異常終了の場合、「エラーメッセージ」ダイアログで表示されます。 /nomsgが指定されている場合は「エラーメッセージ」ダイアログは表示されません

- エラーメッセージ一覧

結果コード	エラーメッセージ
0x00000011	パラメーターエラーです。
0x00000012	パラメーターの重複指定です。
0x00000013	必須パラメーターがありません。
0x00000014	入力パラメーターが長すぎます。
0x00000015	ファイルは存在しません。
0x00000016	ファイルはWinShareのログファイルではありません。
0x00000021	ファイルは使用中です。
0x00000022	ファイルは暗号化されていません。
0x00000023	ファイルの復号に失敗しました。パスワードが違います。
0x00000024	ファイルの復号に失敗しました。資源不足です。
0x00000025	ファイルの復号に失敗しました。内部エラーです。

## 形式2

- 書式

WSDECODLOG /help
------------------

- オプションの重複指定はエラーになります。
- オプションを示す文字は"/" (スラッシュ) もしくは "-" (ハイフン) を利用することが可能です。
- オプションの大文字と小文字の区別はしません。

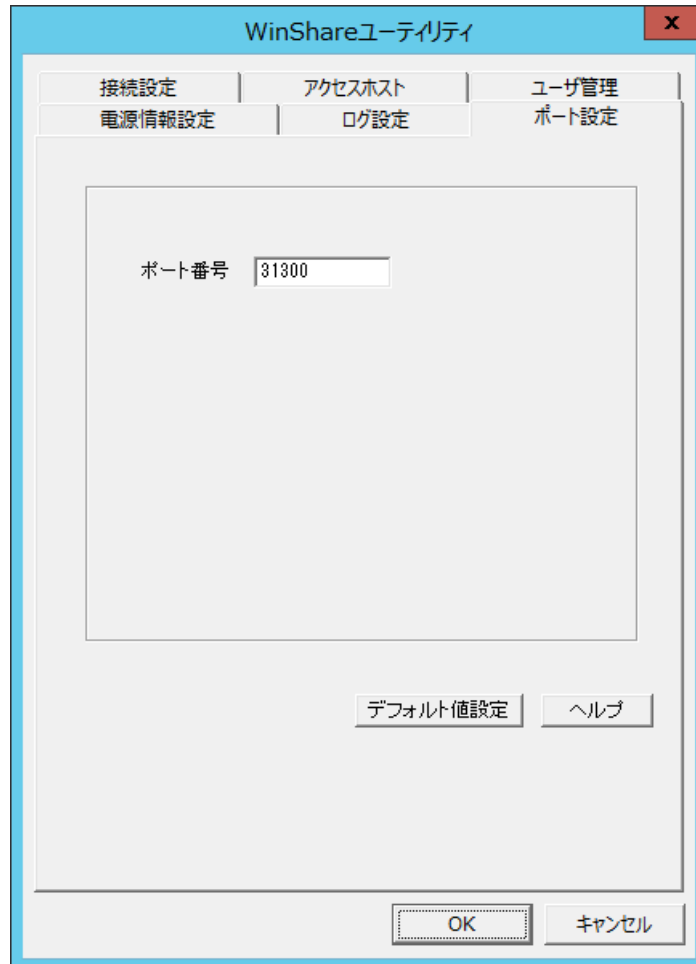
- オプション一覧

オプション	説明
/help	本コマンドのヘルプを表示します。

## 9.3.7 ポート設定

WinShareが使用するポートの設定を行います。

リモートPCは、ここで設定したポート番号でオペレーションPCからの接続を待ち受けます。



- **ポート番号**

オペレーションPCからの接続を待ち受けるポート番号を設定します。

ポート番号に設定できる値は、「0」～「65535」までの整数になります。

デフォルト値は「31300」です。

- **デフォルト値設定**

「デフォルト値設定」ボタンを押下すると、「ポート設定」ダイアログで設定できる各種値のデフォルト値を設定することができます。

※ 「ポート設定」ダイアログで変更した設定内容はWinShareの再起動後に反映されます。

「OK」ボタンを押下すると「再起動確認」ダイアログが表示されますので、メッセージに従ってWinShareを再起動してください。

## 9.4 WinShare お役立ち情報

### 9.4.1 通信経路上にファイアウォールが存在する場合に必要な設定

リモートPCとオペレーションPC間の通信経路上にファイアウォールが設置されている場合は、下記ポートの透過設定を行ってください。

なお、ご利用されているWinShareのバージョンによって透過設定が必要なポートが異なりますのでご注意ください。オペレーションPCのバージョン確認方法はバージョン情報、リモートPCのバージョン確認方法はリモートPC情報表示をご覧ください。

ここに記載している情報はデフォルト設定時のものになります。動作設定(ポート設定)や利用するポート番号の変更方法で利用するポートを変更している場合は、変更後のポートを透過設定する必要があります。

#### ■ オペレーションPC/リモートPCがともにVer6.1以降の場合に使用するポート

用途	オペレーションPC	セッションの方向	リモートPC	識別名
リモート操作/ファイル転送	ANY	——>	31300/TCP	Connect Port
電源操作 (AMT)	ANY	——>	16992/TCP	AMT

#### ■ オペレーションPC/リモートPCがともにVer6.01、もしくはVer6.01とVer6.1以降の組み合わせの場合に使用するポート

用途	オペレーションPC	セッションの方向	リモートPC	識別名
リモート操作	ANY	——>	5025/TCP	Client to Manager
	ANY	——>	5027/TCP	Client to Server1
	ANY	——>	5028/TCP	Client to Server2
ファイル転送	ANY	——>	3000/TCP	CMIT API
	ANY	——>	4935/TCP	CMIT WSFT1
	ANY	——>	5935/TCP	CMIT WSFT2
電源操作 (AMT)	ANY	——>	16992/TCP	AMT

#### ■ オペレーションPC/リモートPCのどちらかがVer6.00以前の場合に使用するポート

用途	オペレーションPC	セッションの方向	リモートPC	識別名
リモート操作	ANY	——>	5025/TCP	Client to Manager
	ANY	——>	5027/TCP	Client to Server1
	ANY	——>	5028/TCP	Client to Server2
ファイル転送	ANY	——>	3000/TCP	CMIT API
	ANY	——>	4935/TCP	CMIT WSFT1

	ANY	—>	5935/TCP	CMIT WSFT2
	4935/TCP	<—	ANY	CMIT WSFT1
電源操作 (AMT)	ANY	—>	16992/TCP	AMT

## 9.4.2 通信経路上にファイアウォールが存在する場合に必要な設定

Windowsファイアウォールが有効な環境でWinShareを利用される場合は、オペレーションPC、リモートPCのそれぞれで下記プログラムの通信を許可してください。

なお、WinShareのインストールディレクトリのデフォルト値は以下の通りです。

64bitシステム : C:\Program Files (x86)\WinShare

32bitシステム : C:\Program Files\WinShare

- オペレーションPC／リモートPCがともにVer6.1以降の場合
  - リモートPCで通信を許可するプログラム
    1. <WinShareのインストールディレクトリ>\wsdelivery.exe
  
- オペレーションPC／リモートPCがともにVer6.01、もしくはVer6.01とVer6.1以降の組み合わせの場合
  - リモートPCで通信を許可するプログラム
    - ◇ Ver6.1以降
      1. <WinShareのインストールディレクトリ>\wsdelivery.exe
  
    - ◇ Ver6.01
      1. <WinShareのインストールディレクトリ>\wsmanager.exe
      2. <WinShareのインストールディレクトリ>\wsserver.exe
      3. <WinShareのインストールディレクトリ>\ESMPROWSR\Bin\CMIT.exe
      4. <WinShareのインストールディレクトリ>\ESMPROWSR\Bin\LGONCMIT.exe

※同じマシン内にWinShareオペレーションもインストールしていると、上記 3.と 4.のパスにファイルが存在しない場合があります。その際は下記プログラムの通信を許可してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>\ESMPROWSO\Bin\CMIT.exe  
<WinShareのインストールディレクトリ>\ESMPROWSO\Bin\LGONCMIT.exe
  
- オペレーションPC／リモートPCのどちらかがVer6.00以前の場合
  - オペレーションPCで通信を許可するプログラム
    - ◇ Ver6.00以前
      1. <WinShareのインストールディレクトリ>\ESMPROWSO\Bin\CMIT.exe

※同じマシン内にWinShareリモートもインストールしていると、上記 1.のパスにファイルが存在しない場合があります。その際は下記プログラムの通信を許可してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥ESMPROWSR¥Bin¥CMIT.exe

- リモートPCで通信を許可するプログラム

- ◇ Ver6.1以降

1. <WinShareのインストールディレクトリ>¥wsdelivery.exe

- ◇ Ver6.01以前

1. <WinShareのインストールディレクトリ>¥wsmanager.exe
2. <WinShareのインストールディレクトリ>¥wsserver.exe
3. <WinShareのインストールディレクトリ>¥ESMPROWSR¥Bin¥CMIT.exe
4. <WinShareのインストールディレクトリ>¥ESMPROWSR¥Bin¥LGONCMIT.exe

※同じマシン内にWinShareオペレーションもインストールしていると、上記 3.と 4.のパスにファイルが存在しない場合があります。その際は下記プログラムの通信を許可してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥ESMPROWSO¥Bin¥CMIT.exe

<WinShareのインストールディレクトリ>¥ESMPROWSO¥Bin¥LGONCMIT.exe

## ✓ アドバイス

プログラムではなく、通信を許可するポートを指定する場合には、オペレーションPC、リモートPCのそれぞれで下記ポートの通信を許可してください。ここに記載している情報はデフォルト設定時のものになります。利用するポート番号の変更方法で利用するポートを変更している場合は、変更後のポートを透過設定する必要があります。

## ■ オペレーションPC／リモートPCがともにVer6.1以降の場合

- リモートPCで通信を許可するポート

1. 31300/TCP (Connect Port)

- オペレーションPC／リモートPCがともにVer6.01、もしくはVer6.01とVer6.1以降の組み合わせの場合

- リモートPCで通信を許可するポート

- ◇ Ver6.1以降

1. 31300/TCP (Connect Port)

- ◇ Ver6.01



1. 3000/TCP (CMIT API)
2. 4935/TCP (CMIT WSFT1)
3. 5025/TCP (Client to Manager)
4. 5027/TCP (Client to Server1)
5. 5028/TCP (Client to Server2)
6. 5935/TCP (CMIT WSFT2)

■ オペレーションPC/リモートPCがともにVer6.00以前、もしくはVer6.00以前とVer6.01以降の組み合わせの場合

● オペレーションPCで通信を許可するポート

◇ Ver6.00以前

1. 4935/TCP (CMIT WSFT1)

● リモートPCで通信を許可するポート

◇ Ver6.1以降

1. 31300/TCP (Connect Port)

◇ Ver6.01以前

1. 3000/TCP (CMIT API)
2. 4935/TCP (CMIT WSFT1)
3. 5025/TCP (Client to Manager)
4. 5027/TCP (Client to Server1)
5. 5028/TCP (Client to Server2)
6. 5935/TCP (CMIT WSFT2)

### 9.4.3 CTRL+ALT+DEL 送信を行うために必要な設定

リモートPCがWindows Vista、Windows Server 2008以降の場合、標準のセキュリティ設定ではオペレーションPCからCTRL+ALT+DEL送信を行うことができません。CTRL+ALT+DEL送信を使用する場合は、以下の設定変更を行ってください。

1. リモートPCにてローカルグループポリシーエディター「gpedit.msc」を起動
2. 「コンピューターの構成」→「管理用テンプレート」→「Windowsコンポーネント」→「Windows ログオンのオプション」→「ソフトウェアのSecure Attention Sequenceを無効または有効にする」を開き、「有効」を選択
3. オプションの「Secure Attention Sequenceの生成が許可されるソフトウェアを設定する」にて、「サービス」を選択
4. 「OK」ボタンを押下

なお、リモートPCがドメインに参加しており、ドメインのグループポリシーにて「ソフトウェアのSecure Attention Sequence」が無効となっている場合も、CTRL+ALT+DEL送信が使用できません（ドメインのグループポリシーの方がローカルのグループポリシーより優先度が高いため）。CTRL+ALT+DEL送信を使用する場合は、以下の設定変更を行ってください。

1. グループポリシー管理コンソールが利用できるマシンにドメイン管理者でログオン
2. グループポリシー管理コンソール「gpmmc.msc」を起動
3. ツリーの中から対象のドメインを選択し、該当するグループポリシーオブジェクトを右クリックして「編集」を選択
4. 「コンピューターの構成」→「管理用テンプレート」→「Windowsコンポーネント」→「Windows ログオンのオプション」→「ソフトウェアのSecure Attention Sequenceを無効または有効にする」を開き、「有効」を選択
5. オプションの「Secure Attention Sequenceの生成が許可されるソフトウェアを設定する」にて、「サービス」を選択
6. 「OK」ボタンを押下

※ドメイングループポリシーを変更した際には、リモートPCの再起動を行ってください。

#### ✓ アドバイス

リモートPCがWindows Vista、Windows Server 2008以降でユーザーアカウント制御の設定を既定値から変更（「通知しない」に設定）している場合、CTRL+ALT+DEL送信が使用できません。CTRL+ALT+DEL送信を使用する場合は、以下の通りユーザーアカウント制御を使用する設定としてください。

1. リモートPCにてコントロールパネルを表示
2. 「ユーザーアカウント」→「ユーザーアカウント制御設定の変更」を選択

3. 左側に表示されるスライダーを一番下の「通知しない」より上に設定
4. 「OK」ボタンを押下

## 9.4.4 IP アドレスやホスト名を変更した場合の影響について

WinShareがインストールされているマシンのIPアドレスやホスト名を変更した場合、そのマシン自体の更新は不要ですが、更新したマシンに接続するマシン、もしくは接続されるマシンでWinShareの設定の更新が必要な場合があります。

### ■ リモートPCのIPアドレス/ホスト名を変更した場合

IPアドレス/ホスト名を変更したリモートPCを、WinShareオペレーションGUIのリモートPC接続先管理に登録している場合は、オペレーションPCにてリモートPC接続先管理の情報を更新してください。

#### ✓ アドバイス

リモートPCのIPアドレスを変更した場合であっても、リモートPC接続先管理に「ホスト名」で登録を行っており、その登録されている「ホスト名」でIPアドレス変更後のリモートPCが特定（名前解決）できるならば、リモートPC接続先管理の更新は不要です。

同様に、リモートPCのホスト名を変更した場合であっても、リモートPC接続先管理に「IPアドレス」で登録を行っており、リモートPCのIPアドレスに変更がない場合はリモートPC接続先管理の更新は不要です。

### ■ オペレーションPCのIPアドレス/ホスト名を変更した場合

IPアドレス/ホスト名を変更したオペレーションPCを、WinShareユーティリティのアクセスホスト（接続を許可するマシン）に登録している場合は、リモートPCにてアクセスホストの情報を更新してください。

※アクセスホストの更新を行った場合は「WinShare Remote Service」サービスの再起動を行ってください。

#### ✓ アドバイス

オペレーションPCのIPアドレスを変更した場合であっても、アクセスホストに「ホスト名」で登録を行っており、その登録されている「ホスト名」でIPアドレス変更後のオペレーションPCが特定（名前解決）できるならば、アクセスホストの更新は不要です。

同様に、オペレーションPCのホスト名を変更した場合であっても、アクセスホストに「IPアドレス」で登録を行っており、オペレーションPCのIPアドレスに変更がない場合はアクセスホストの更新は不要です。

## 9.4.5 異なるバージョンの相互接続について

WinShareはVer2.xx以降の場合どのバージョンでも相互に接続することが可能です。

ただし、各バージョンで追加された機能についてはそのバージョン以降の組み合わせでのみご利用可能です。

### ✓ 注意

一台のマシンにWinShareオペレーションとWinShareリモートの両方をインストールする場合は、同じバージョンをインストールしていただく必要があります。

## 9.4.6 バージョンアップ時の設定の引き継ぎについて

Ver2.1以降の製品では、設定を引き継いだ上書きインストールが可能です。なお、上位バージョンで追加された機能（下位バージョンには存在しない機能）の設定値はデフォルト値が設定されます。

## 9.4.7 利用するポート番号の変更方法

WinShareが利用するポート番号は変更することが可能です。

### ■ WinShareが利用するポート番号

Ver6.1で利用するポート番号は以下の通りです。

「プロセス間通信にのみ利用」の欄が「○」になっているポート番号は、リモートPC内でのプロセス間通信にのみ使用します。「－」となっているポート番号の使用有無は、オペレーションPCとリモートPCのバージョンの組み合わせによって異なります。詳細は通信経路上にファイアウォールが存在する場合に必要な設定を参照してください。

識別名	ポート番号	プロセス間 通信にのみ 利用	使用するポート番号を変更する場合の設定 変更要否	
			オペレーションPC側	リモートPC側
Connect Port	31300/TCP	－	要	要
CMIT API	3000/TCP	－	要	要
CMIT WSFT1	4935/TCP	－	要	要
CMIT WSFT2	5935/TCP	－	不要	要
LOGONCMIT API	13000/TCP	○	不要	要
Server to GINA(Notify) ※1	5024/TCP	○	不要	要
Client to Manager	5025/TCP	－	要	要
Server to Manager	5026/TCP	○	不要	要
Client to Server1	5027/TCP	－	不要	要
Client to Server2	5028/TCP	－	不要	要
Server to Notify ※2	5329/TCP ~ 5343/TCP	○	不要	要
AMT	16992/TCP	－	変更不可	変更不可

※1 リモートPCがWindows XP、Windows Server 2003以前の場合にのみ使用します。

※2 リモートPCがWindows XPの場合にのみ使用します。

### ■ ポート番号の変更方法

ポート番号の識別名毎に変更する手順を説明します。なお、ここに記載の内容はVer6.1以降での手順になります。

#### ● Connect Port (31300/TCP)

◇ オペレーションPC

1. 動作設定(ポート設定)にて、「接続先リモートPCがVer6.1以降の場合に使用する共通ポート」の「ポート番号」を変更してください。

もしくは、レジストリエディタにて、以下のDWORD(32ビット)値を変更してください。

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESMPRO/CM¥Component¥Delivery

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMPRO/CM¥Component¥Delivery

値の名称 : ConnectPort

値のデータ : 31300

#### ◇ リモートPC

1. WinShareユーティリティの「ポート設定」タブにて、「ポート番号」を変更してください。

もしくは、下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥delivery.cf

```
LISTEN_PORT = "31300"
```

### ● CMIT API (3000/TCP)

#### ◇ オペレーションPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

%windir%¥system32¥drivers¥etc¥services

```
cmit_api 3000/tcp #cmit-api
```

2. 動作設定(ポート設定)にて、「接続先リモートPCがVer6.0以前の場合に使用する個別ポート」の「ファイル操作ポート番号」を変更してください。

もしくは、レジストリエディタにて、以下のDWORD(32ビット)値を追加・変更してください。

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESMPRO/CM¥Component¥WSFT

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMPRO/CM¥Component¥WSFT

値の名称 : ApiPort



値のデータ : 3000

◇ リモートPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

%windir%\system32\drivers\etc\services

cmit_api 3000/tcp #cmit-api
-----------------------------

● CMIT WSFT1 (4935/TCP)

◇ オペレーションPC

1. レジストリエディタにて、以下のDWORD(32ビット)値を追加・変更してください。

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\ESMPRO\CM\Component\CMIT

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMPRO\CM\Component\CMIT

値の名称 : PortCount

値のデータ : 4935

2. 動作設定(ポート設定)にて、「接続先リモートPCがVer6.0以前の場合に使用する個別ポート」の「ファイル転送ポート番号」を変更してください。

もしくは、レジストリエディタにて、以下のDWORD(32ビット)値を追加・変更してください。

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\ESMPRO\CM\Component\WSFT

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMPRO\CM\Component\WSFT

値の名称 : EfpPort

値のデータ : 4935

◇ リモートPC

1. レジストリエディタにて、以下のDWORD(32ビット)値を追加・変更してください。

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\ESMPRO\CM\Component\CMIT

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMPRO/CM¥Component¥CMI  
T

値の名前： PortCount

値のデータ： 4935

- CMIT WSFT2 (5935/TCP)

- ◇ リモートPC

1. レジストリエディタにて、以下のDWORD(32ビット)値を追加・変更してください。

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESMPRO/CM¥C  
omponent¥CMIT

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMPRO/CM¥Component¥CMI  
T

値の名前： LogOnPortCount

値のデータ： 5935

- LOGONCMIT API (13000/TCP)

- ◇ リモートPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

%windir%¥system32¥drivers¥etc¥services

logoncmit_api 13000/tcp #logoncmit_api
--

- Server to GINA(Notify) (5024/TCP)

- ◇ リモートPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥winshare.cf

PORT_SG = "5024"
------------------

- Client to Manager (5025/TCP)

- ◇ オペレーションPC

1. 動作設定(ポート設定)にて、「接続先リモートPCがVer6.0以前の場合に使用する個別ポート」の「リモート接続ポート番号」を変更してください。

もしくは、レジストリエディタにて、以下の文字列値を追加・変更してください。

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥WinShareVer2¥  
Connection

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥WinShareVer2¥Connection

値の名前： CustomCtoM

値のデータ： 5025

◇ リモートPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥winshare.cf

PORT\_CM = "5025"

● Server to Manager (5026/TCP)

◇ リモートPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥winshare.cf

PORT\_SM = "5026"

● Client to Server1 (5027/TCP) 、 Client to Server2 (5028/TCP)

◇ リモートPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥winshare.cf

PORT\_CS = "5027 5028"

※半角スペースで区切り、2つのポート番号を指定してください。

● Server to Notify (5329/TCP~5343/TCP)

◇ リモートPC

1. 下記ファイルに以下のエントリを追加・変更してください。

<WinShareのインストールディレクトリ>¥winshare.cf

PORT\_SN = "5329"

※ここで設定したポート番号以降、連番で最大15ポートを使用します。

✓ 注意

電源操作 (AMT) を行う際に利用するポート「16992/TCP」は変更することができません。

## 9.4.8 対応するディスプレイ解像度の変更方法

WinShareは標準で3840×2160(4K) までのディスプレイ解像度に対応しています。4Kを超える解像度のリモートPCをリモート操作する場合は、オペレーションPCにて以下の手順を実施してください。

1. WinShareオペレーションGUI (wsclient.exe) を起動している場合は停止

2. 以下のプログラムを管理者として実行し、「OK」ボタンを押下

<WinShareのインストールディレクトリ>\%wsdspset.exe

3. レジストリエディタにて、以下のDWORD(32ビット)値を更新

64bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\WinShareVer2\Client

32bit OS :

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NEC\WinShareVer2\Client

値の名前: LimitHorz

値のデータ: 横のピクセル数 (例: 0x00001e00 (10進数で7680) )

値の名前: LimitVert

値のデータ: 縦のピクセル数 (例: 0x000010e0 (10進数で4320) )

### ✓ 注意

wsdspset.exeを実行することで、レジストリにLimitHorz (既定値: 1400) とLimitVert (既定値: 1050) が作成されます。この既定値のままでは1400×1050 (SXGA+) までの画像しか表示できなくなりますので、ディスプレイ解像度を拡張する場合は必ずレジストリエディタにて値を更新してください。

## 9.4.9 リモート操作時のキー入力に関する注意事項

WinShareでリモート操作を行う際のキー入力に関する注意事項があります。

1. リモート操作中に日本語入力を行う場合は、オペレーションPC側のCapsLockをOFFにしてください。CapsLockがONの場合、日本語入力を行ってもアルファベットの大文字が入力されません。
2. オペレーションGUIを最大化した状態でWindowsキーを連続で押下すると、リモートPC側でWindowsキーの入力が再現されない場合があります。  
事象が発生した場合はマウスなどでオペレーションGUIをアクティブにしてからWindowsキーを押下してください。
3. Alt+Tabキーを連続して押下した場合、リモートPC側のアクティブなアプリケーションに対してAltキーが押下された状態になる場合があります(例えば、アプリケーションのメニューバーが選択された状態になります)。  
事象が発生した場合はマウスなどでリモートPC側の該当アプリケーションのウィンドウをクリックするなどし、Altキーの入力状態を解除してください。

## 9.4.10 AMT のプロビジョニング方法

AMTを用いてリモートPCの電源制御を行う場合は、リモートPCにてAMTのプロビジョニング(事前設定)を行う必要があります。

ここではAMTのプロビジョニング例を示します。ただし、プロビジョニング方法は、PCの機種、AMTのバージョン、設定ツールのバージョンなどによって異なります。そのため、ここに記載の例の通りに設定しても正常に動作しない場合があります。その場合は、各PCのマニュアル、インテル社から公開されている情報などを参照して正しく設定を行ってください。

AMTのプロビジョニング方法には、インテル社が提供しているツールを使用する方法と、拡張BIOS(MEBx)を直接操作して設定する方法の2通りがあります。ここではインテル社が提供する、Intel AMT SCS(Setup and Configuration Software)およびUSBメモリを用いた設定方法について説明します。拡張BIOSを直接操作する方法につきましては、各PCのマニュアルを参照してください。

### ■ Intel AMT SCSについて

Intel AMT SCSを用意してください。このソフトウェアはAMTに対してプロビジョニングを行うためのツールです。このツールは、ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに展開すれば、インストールなどは行わずに実行することが可能です。

ダウンロードは以下のURLから行うことが可能です。

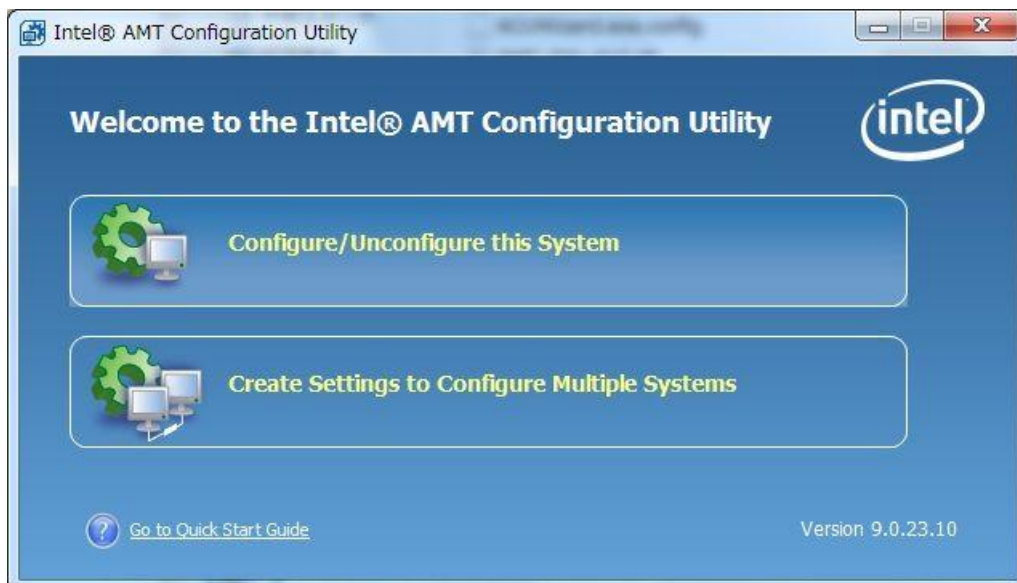
[https://downloadcenter.intel.com/Detail\\_Desc.aspx?agr=Y&DwnldID=20921](https://downloadcenter.intel.com/Detail_Desc.aspx?agr=Y&DwnldID=20921)

### ■ USBメモリを使用してプロビジョニングを行う方法

Intel AMT SCSはVer6.0以降からUSBメモリを使用したプロビジョニングをサポートしています。ここではUSBメモリを使用したプロビジョニング手順について説明します。

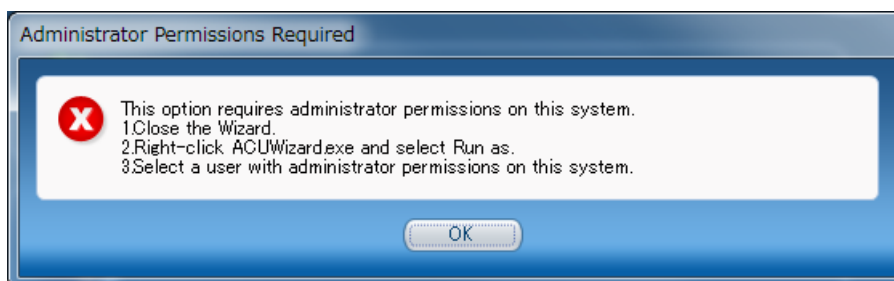
(1) ダウンロードして展開したフォルダ配下のIntel AMT SCSフォルダ内のACU\_Wizardに移動してください。フォルダ内のACUWizard.exeを右クリックし、管理者で実行を選択し実行してください。この時、変更を許可するかどうかを聞かれますが、「はい」を選択してください。

(2) 「Intel AMT Configuration Utility」ダイアログが表示されたら、「Configure/Unconfigure this System」(現在のシステムを対象とした構成)をクリックしてください。



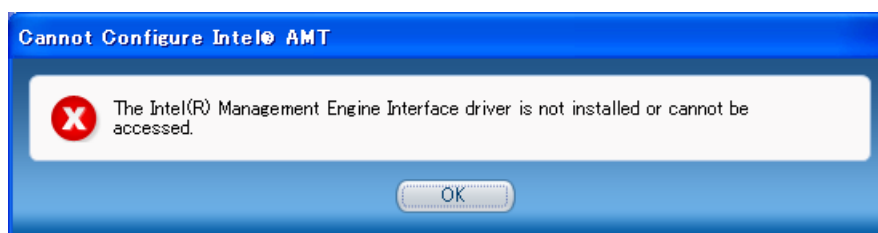
#### ※注意1

(2)で、管理者実行していない場合は以下の図のようなメッセージが表示されます。「OK」を押して現在表示されているダイアログを閉じて、ACUWizard.exeを管理者で実行し直してください。

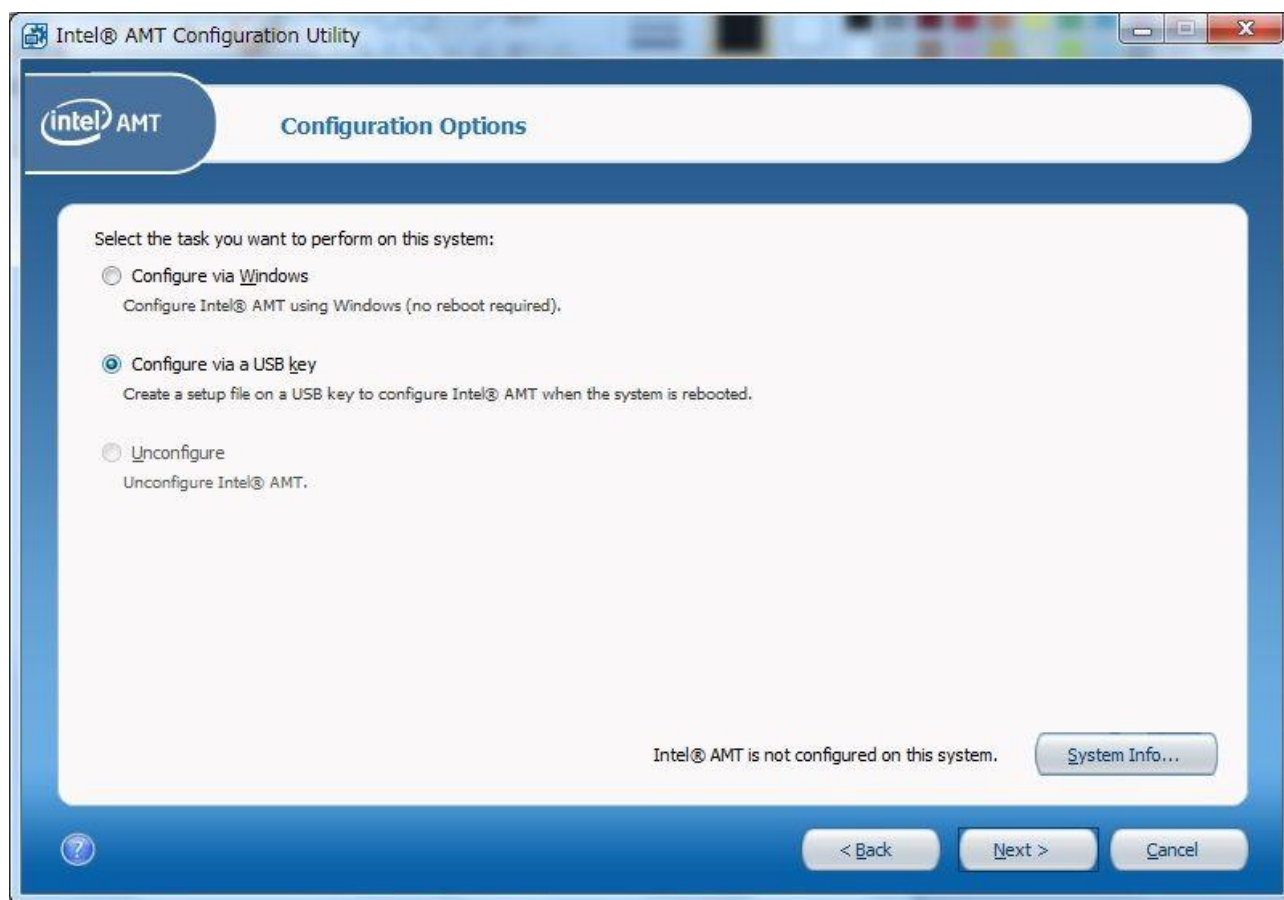


#### ※注意2

下記の画面のようなメッセージが表示されたら、お使いのマシンにIntel AMTのドライバがインストールされていません。そのため、SCSを用いたのプロビジョニングを行えません。vPro搭載のマシンかどうか確かめた上で使用しているPCのメーカーに問い合わせを行い、ドライバをインストールしてください。

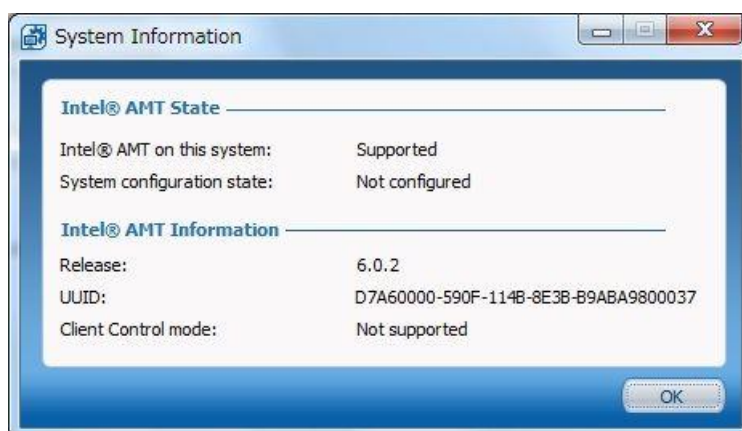


(3) 「Configuration Options」画面が開かれるので、一番上の「Configure via a USB key」を選択し、画面下部の「Next」ボタンを押してください。



### ※備考

画面右下の「System Info…」をクリックすると、以下のような画面が表示され、現在お使いのマシンのIntel AMTの構成状態/バージョン情報/UUID/リモートコントロールのサポート状態が確認できます。





(4) 「Configuration via USB key」画面が開かれたら、「New password(mandatory)」にIntel AMTに設定するパスワードを入力してください。この時、入力するパスワードは以下の制約を守らなければなりません。

- 8～32文字以内であること
- 半角英字大文字小文字、半角数字、記号が全て使用されていること 例)P@\$Word1234

入力したパスワードは「Confirm password」で再度入力してください。

Intel® AMT Configuration Utility

Configure via USB Key

Define the settings you want to apply to this system and click <Next>.

**Intel® MEBx Password**

Current Password:   Show password

New Password:

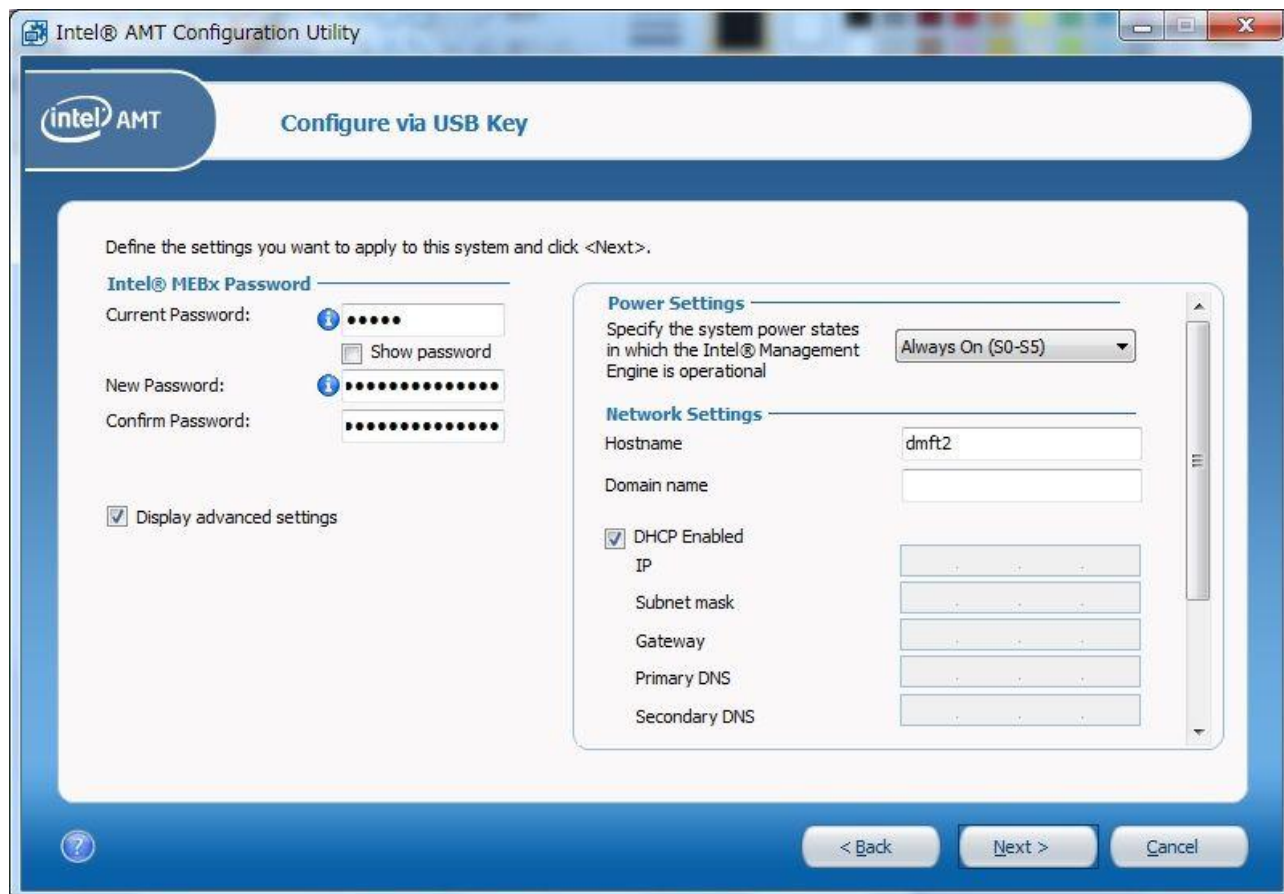
Confirm Password:

Display advanced settings

< Back    Next >    Cancel

### ※備考

ネットワークの設定を行いたい場合は「Display advanced settings」をチェックすると、ネットワークの設定が行えるようになります。



(5) 「Power Settings」では、Intel AMTによる制御を行う電源状態を設定します。Always On (S0-S5) … システムが電源に接続されている状態であれば、Intel AMTによる制御が可能です。

こちらを選択してください。

Host is On(S0) … オペレーティングシステムが動作している状態であれば、Intel AMTによる制御が可能です。

(6) 「Network Settings」ではHostname/Domain nameの設定を行うことができます。デフォルトの設定では、DHCPによって自動的にIPアドレスを割り振る設定になっています。設定されたIPアドレスを確認するためには、構成完了後にWebUI(http://localhost:16992/)にアクセスするなどしなければなりません。手動でIP/Subnet mask/Gateway/Primary DNS/Secondary DNSを設定する場合は、「DHCP Enable」のチェックを外し、各項目に値を設定してください。値を入力したら画面下部の「Next」ボタンを押してください。

Intel® AMT Configuration Utility

Configure via USB Key

Define the settings you want to apply to this system and click <Next>.

**Intel® MEBx Password**

Current Password:   Show password

New Password:

Confirm Password:

Display advanced settings

**Power Settings**

Specify the system power states in which the Intel® Management Engine is operational

Always On (S0-S5)

**Network Settings**

Hostname: dmft2

Domain name:

DHCP Enabled

IP: 10 . 109 . 49 . 41

Subnet mask: 255 . 255 . 255 . 0

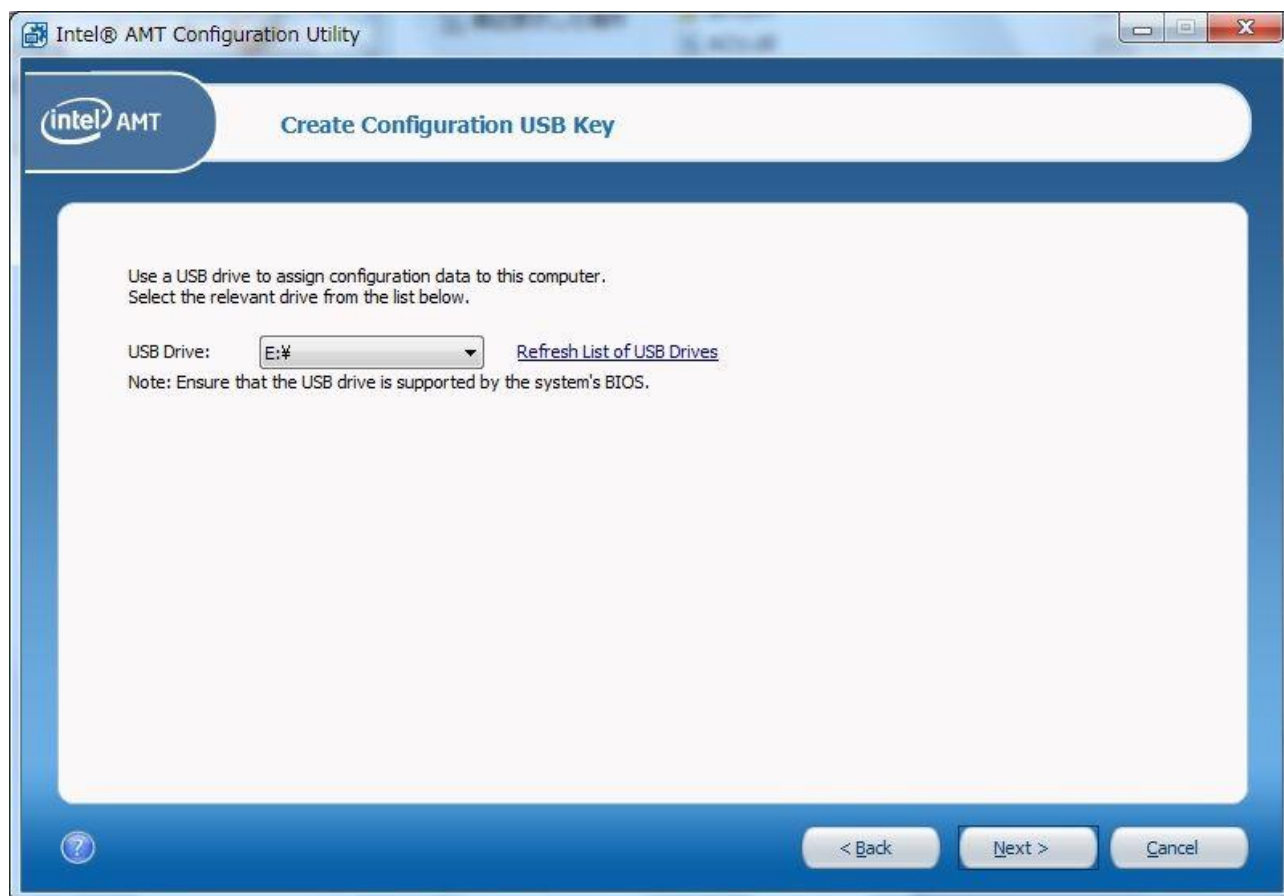
Gateway: 10 . 109 . 49 . 254

Primary DNS: 10 . 108 . 16 . 111

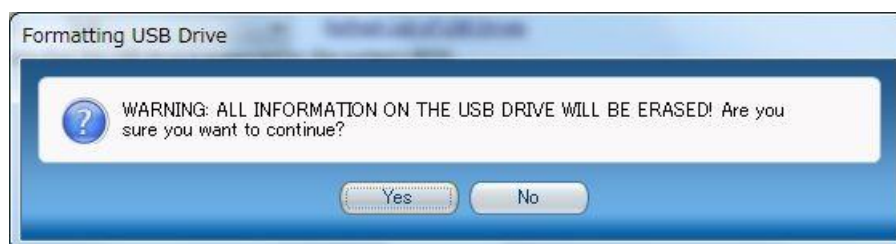
Secondary DNS: 10 . 108 . 16 . 211

< Back    Next >    Cancel

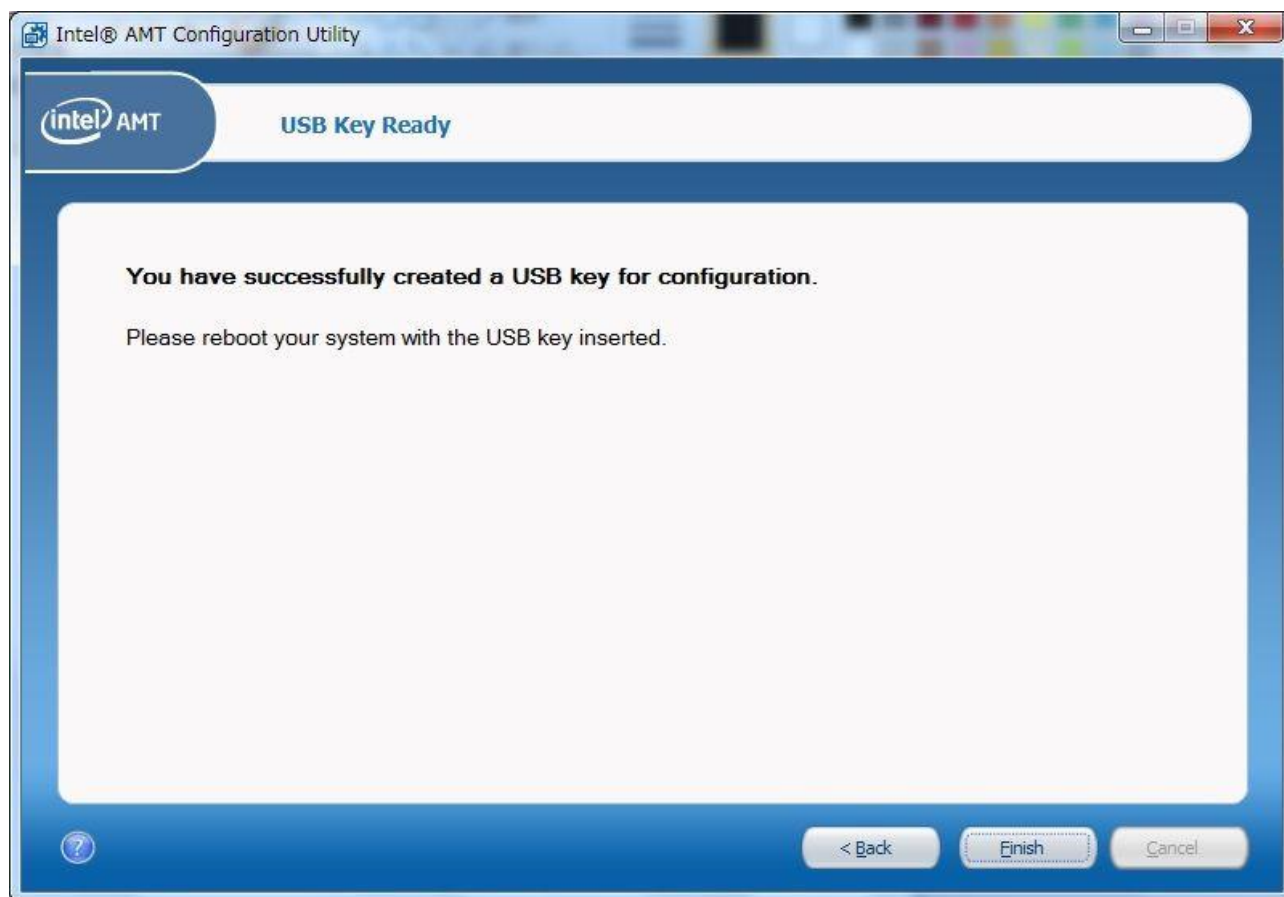
- (7) 「Create Configuration USB Key」画面が開かれたら、USB Keyを格納するUSBメモリを選択し、「Next」ボタンを押してください。



- (8) 「Next」ボタンを押すと、以下の画面が表示されます。USBドライブに格納している情報は全て削除されるので注意してください。処理を続けるには、「Yes」ボタンを押してください。



(9) 「USB Key」の作成が完了すると、「USB Key Ready」画面が表示されます。「Finish」ボタンを押してUSB Keyの作成を完了してください。

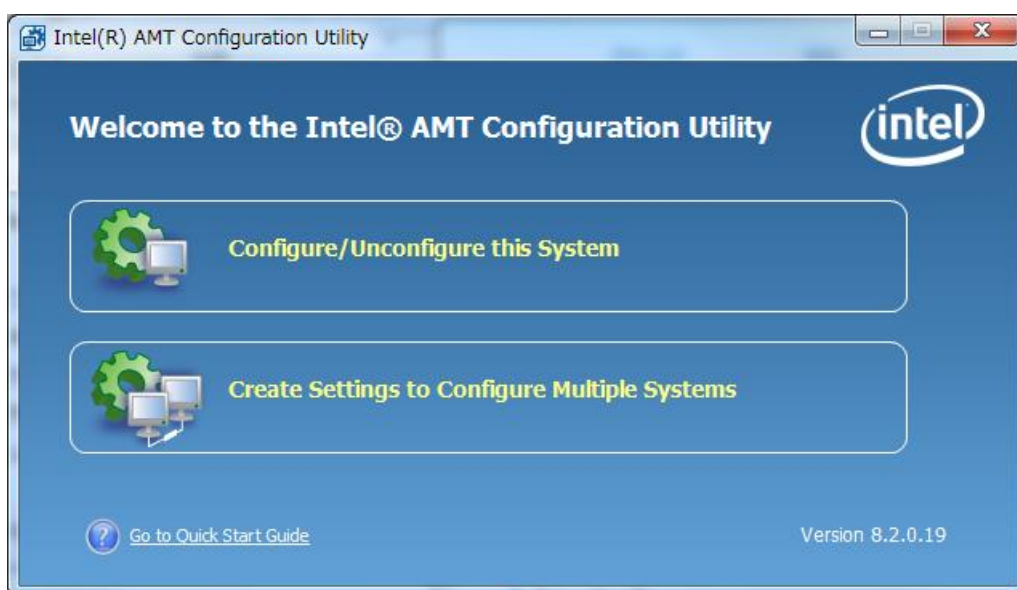


(10) 作成した「USB Key」のみをシステムに接続し、システムを再起動してください。再起動時に以下のメッセージがスクリーンに表示されます。Found USB Key for provisioning Continue with Auto Provisioning (Y/N) "Y"キーをタイプし、<Enter>を押してください。AMTの設定が行われ、次のメッセージがスクリーンに表示されます。Configuration settings for the USB file were successfully applied Press any key to continue with system boot... USBメモリをシステムから取り除き、何かキーを押してください。システムが再起動します。以上で、USBメモリを使用したプロビジョニングは完了です。

## ■ Windows上でプロビジョニングを行う方法(初回)

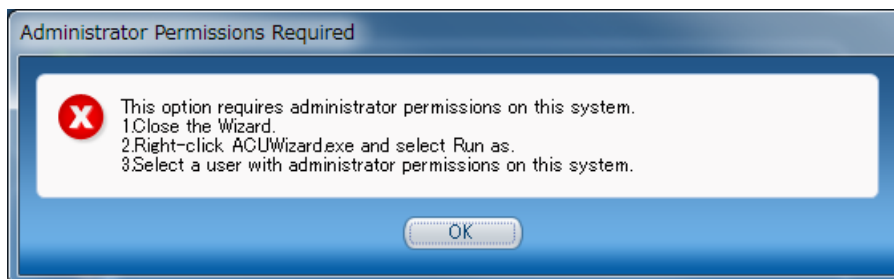
(1) Intel AMT SCSはVer7.0以降からWindows上でのプロビジョニングのサポートが開始されました。ここではWindows上でのプロビジョニング手順について説明します。(1) ダウンロードして展開したフォルダ配下のIntel AMT SCSフォルダ内のACU\_Wizardに移動してください。フォルダ内ACUWizard.exeを右クリックし、管理者で実行を選択し実行してください。この時、変更を許可するかどうかを聞かれますが、「はい」を選択してください。

(2) 「Intel AMT Configuration Utility」ダイアログが表示されたら、「Configure/Unconfigure this System」(現在のシステムを対象とした構成)をクリックしてください。



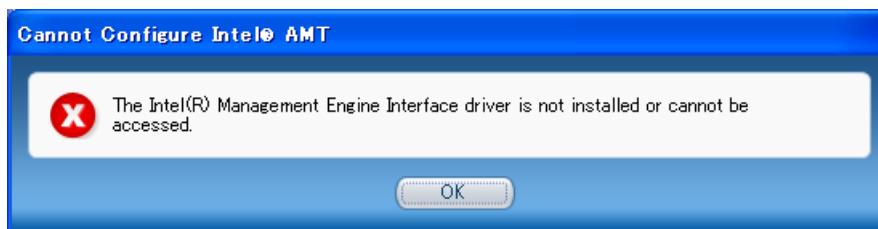
### ※注意1

(2)で、管理者実行していない場合は以下の図のようなメッセージが表示されます。「OK」を押して現在表示されているダイアログを閉じて、ACUWizard.exeを管理者で実行し直してください。

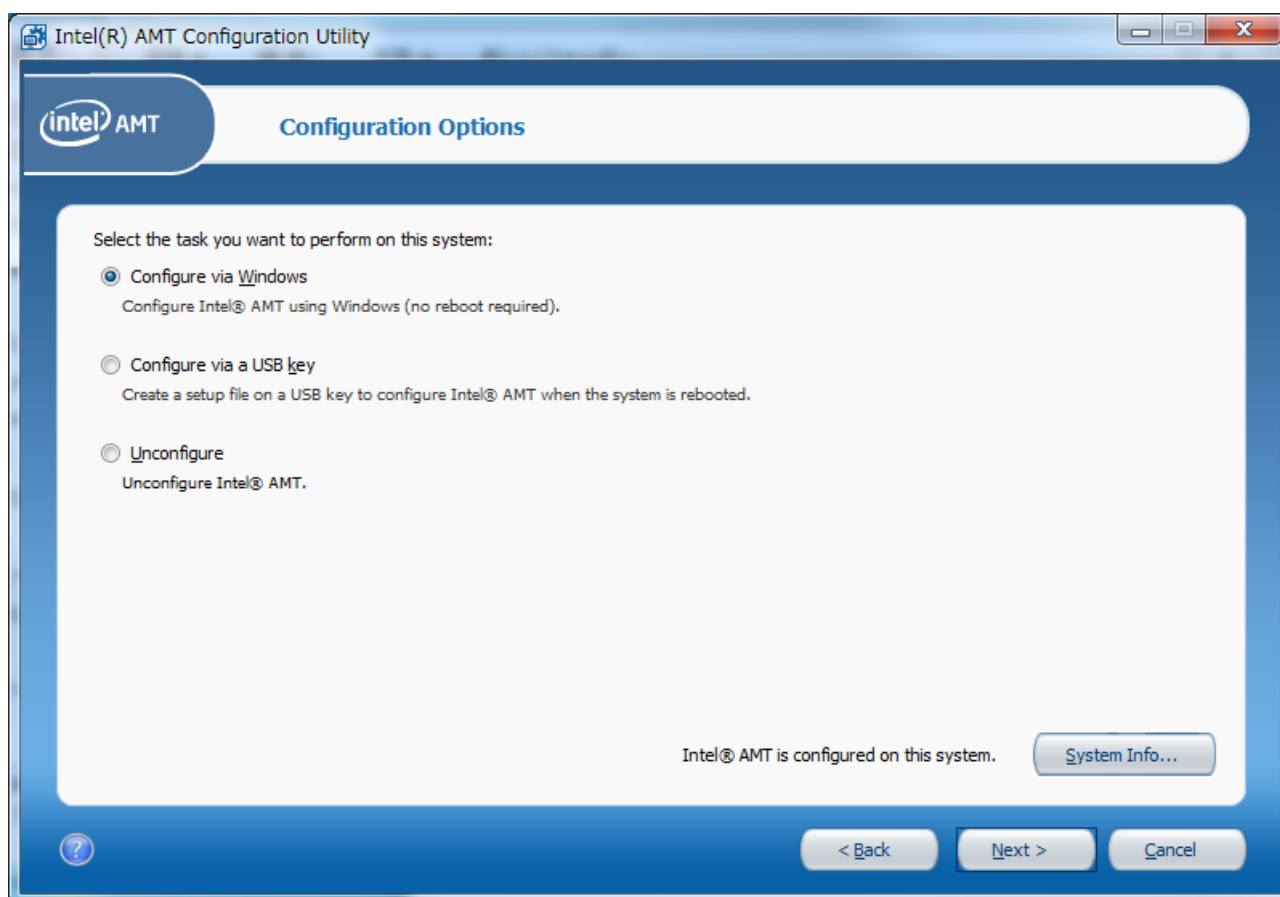


## ※注意2

下記の画面のようなメッセージが表示されたら、お使いのマシンにIntel AMTのドライバがインストールされていません。そのため、SCSを用いたのプロビジョニングを行えません。vPro搭載のマシンかどうか確かめた上で使用しているPCのメーカーに問い合わせを行い、ドライバをインストールしてください。

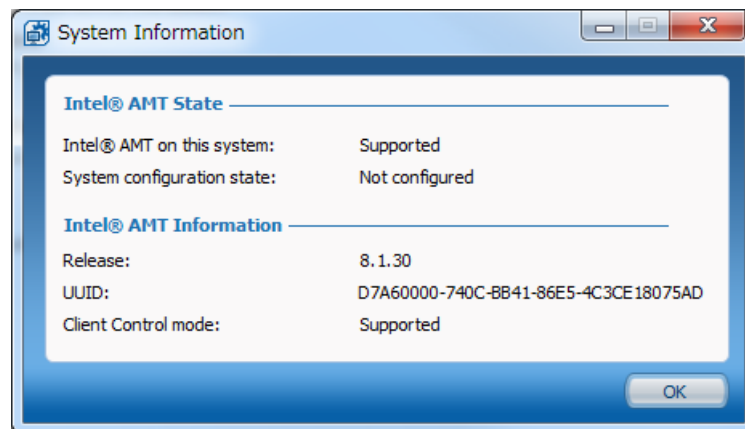


(3) 「Configuration Options」画面が開かれるので一番上の「Configure via Windows」(Windowsでの構成)を選択し、画面下部の「Next」ボタンを押してください。



### ※備考

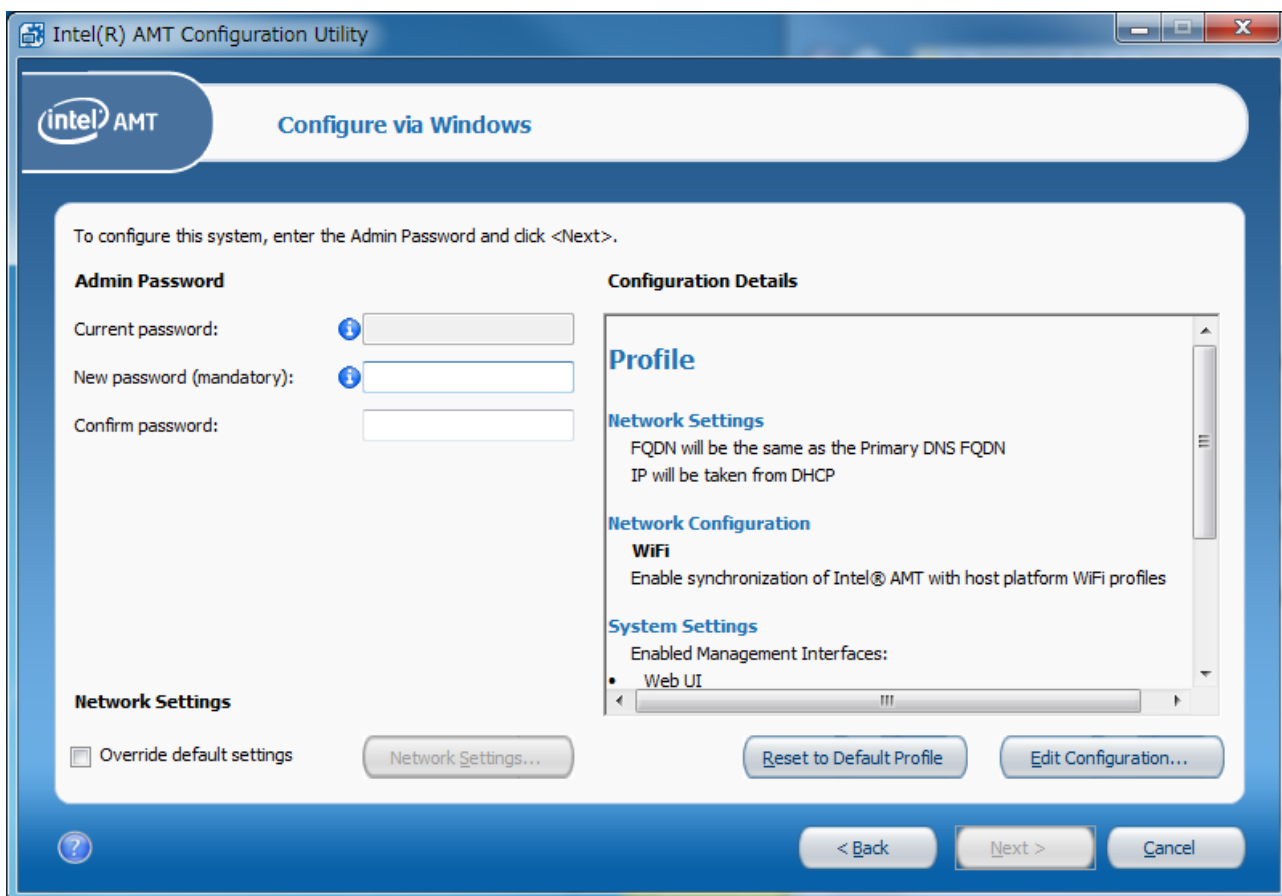
画面右下の「System Info…」をクリックすると、以下のような画面が表示され、現在お使いのマシンのIntel AMTの構成状態/バージョン情報/UUID/リモートコントロールのサポート状態が確認できます。





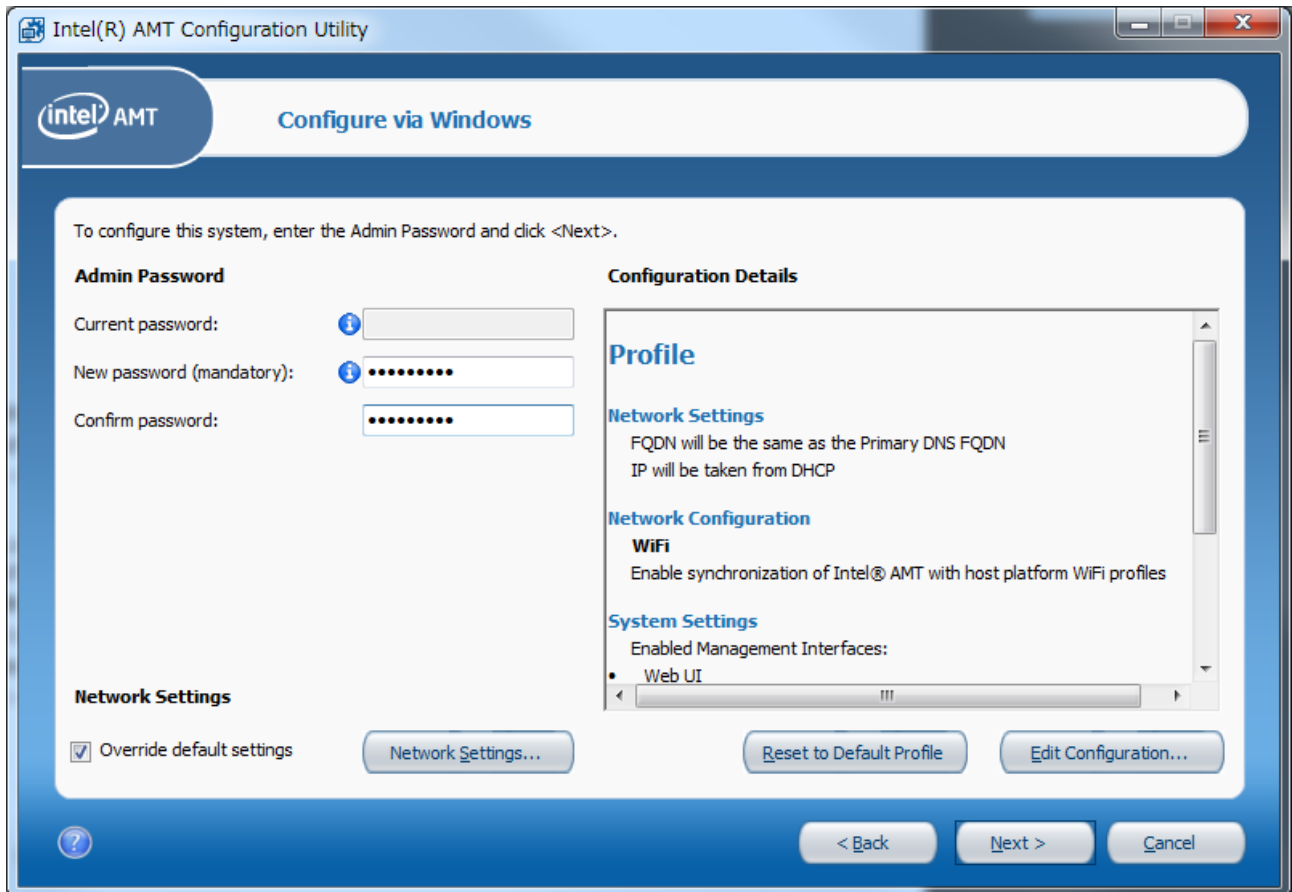
(4) 「Configuration via USB key」画面が開かれたら、「New password(mandatory)」にIntel AMTに設定するパスワードを入力してください。この時、入力するパスワードは以下の制約を守らなければなりません。

- 8～32文字以内であること
- 半角英字大文字小文字、半角数字、記号が全て使用されていること 例)P@\$Word1234



※備考

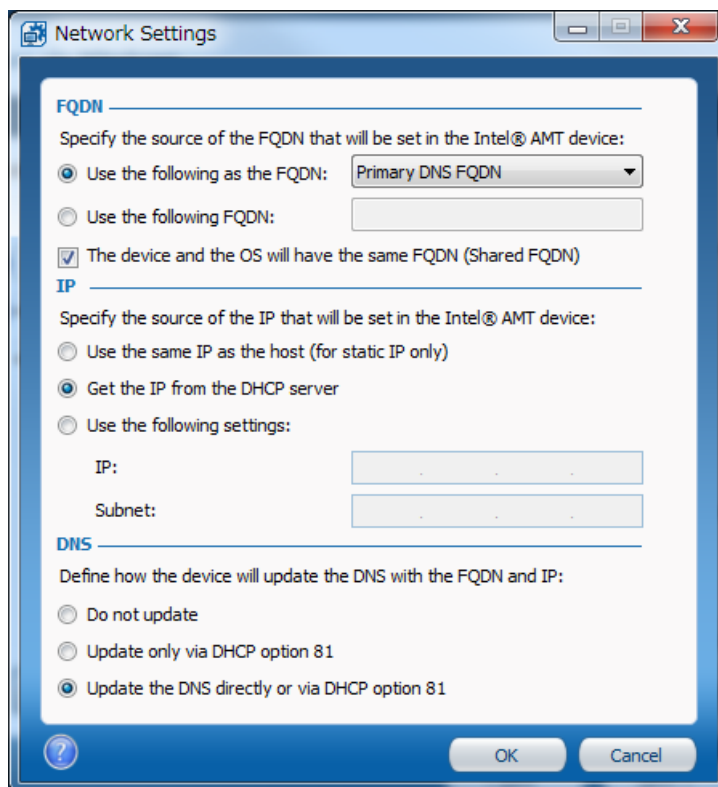
ネットワークの設定を行いたい場合は画面左下の「Override default setting」にチェックをすると「Network Setting」がアクティブになり、ネットワークの設定が行えるようになります。



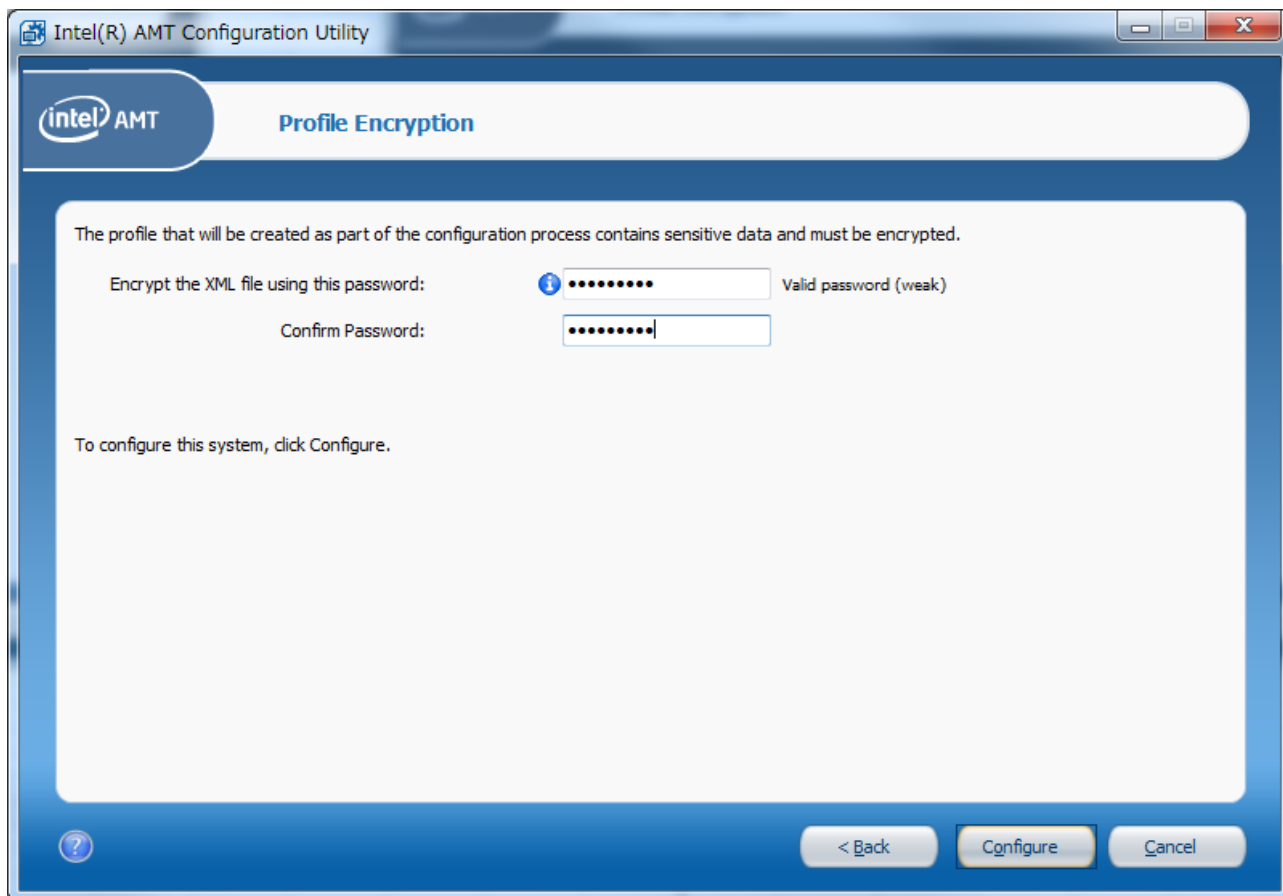
(5) 「Network Settings」画面ではFQDN(完全修飾ドメイン名)/IPアドレス/DNSの3つの項目について設定を行うことができます。初期設定では以下の画面のような設定となっています。基本設定のままではDHCPから自動的にIPアドレスが割り振られ、設定されたIPアドレスを確認するためには構成完了後にWebUI(http://localhost:16992/)にアクセスするなどしなければなりません。IPアドレスを自由に設定することもできますが、使用しているマシンのIPアドレスの設定をそのままAMTのIPアドレスとして設定することもできます。IPアドレスを自由に設定したい場合は「Use the following settings」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力してください。使用中のマシンの設定をそのまま反映させたい場合は「Use the same IP as the host(from static IP only)」を選択してください。

### ※注意

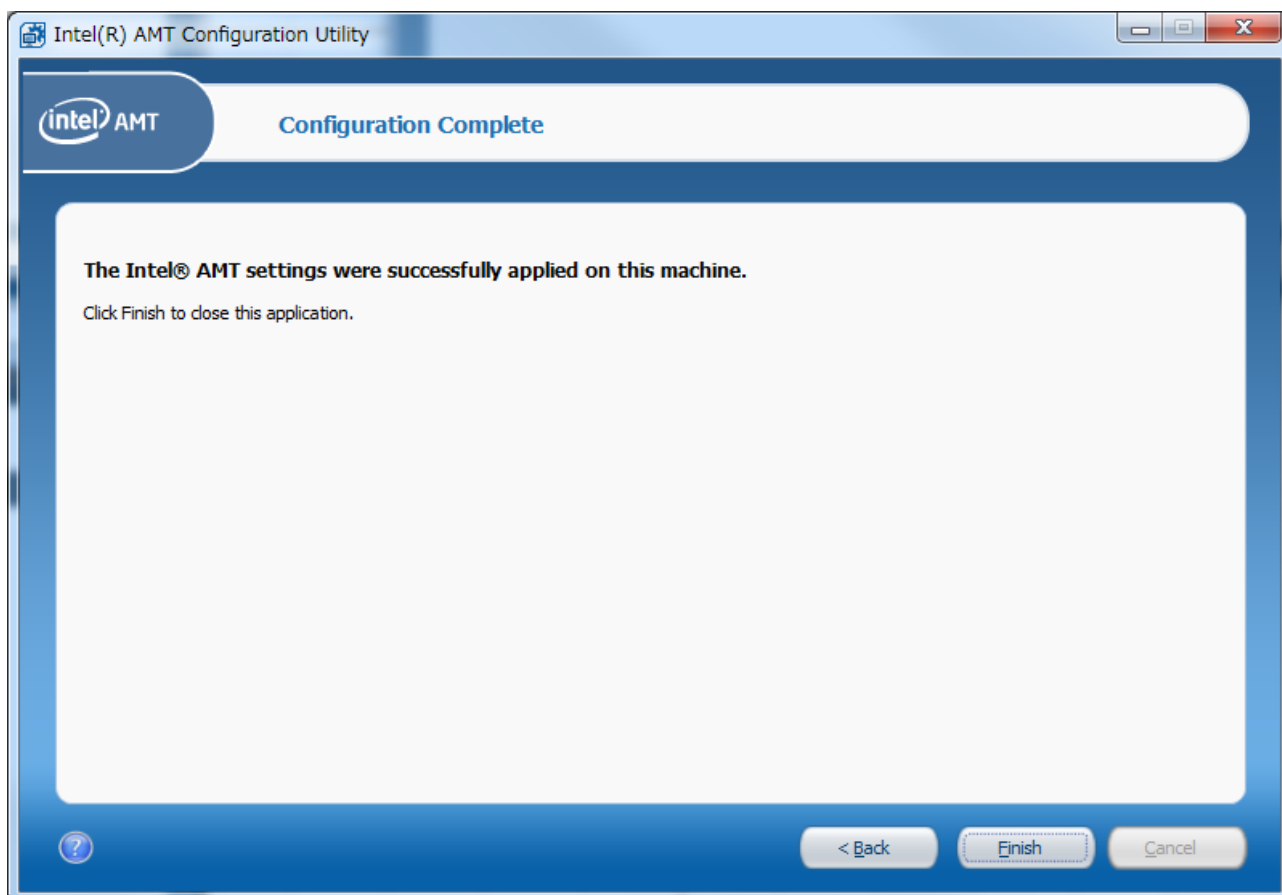
「Use the same IP as the host(from static IP only)」を選択するとき、IPv4/IPv6のどちらも固定IPを設定している必要があります。どちらか一方のみに固定IPを設定している状態では、構成時にエラーとなります。エラー回避の方法として、固定IPを設定していないものを「無効」にしてください。



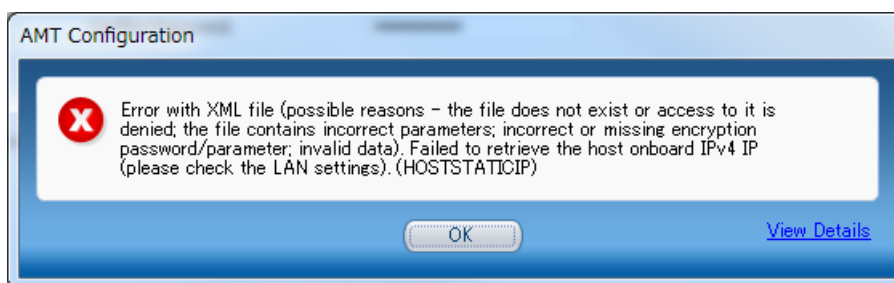
(6) 「Configuration via Windows」画面での設定が終わったら「Next」を押して、次の「Profile Encryption」(プロファイル暗号化)画面へと移動してください。この画面では構成情報を保存するXMLファイルの暗号化に使用するパスワードを設定してください。パスワードの制約は前述のIntel AMTに設定するパスワードのものと同じです。



(7) 入力項目を全て埋めたら、画面右下の「Configure」がアクティブになるので押してください。プロビジョニングが始まります。下図のような画面が表示されれば、正常にプロビジョニングが完了しています。「Finish」を押し、画面を終了してください。



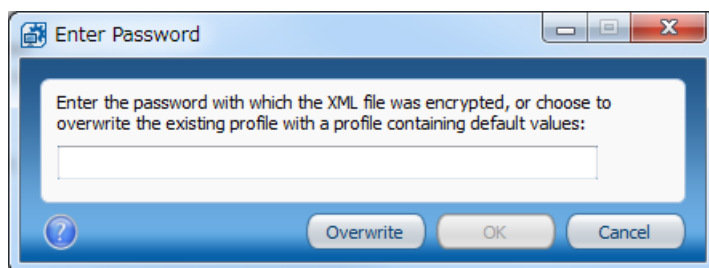
構成中に下図のようなエラーメッセージが表示された場合には、PCのIPアドレスの設定を見直してから、構成を再度行ってください。



## ■ Windows上でプロビジョニングを行う方法(初回)

Intel AMT SCSはVer7.0以降からWindows上でのプロビジョニングのサポートが開始されました。ここではWindows上でのプロビジョニング手順(二回目以降)について説明します。

- (1) 「ACU\_Wizard.exe」を右クリックで選択し、管理者権限で実行を行ってください。
- (2) 「Intel AMT Configuration Utility」ダイアログが表示されますので、「Configure/Unconfigure this System」(現在のシステムを対象とした構成)をクリックしてください。
- (3) 「Configure via Windows」を選択し、「Next」を押下してください。以下のような画面が表示されます。



前回の構成設定を引き継いだ構成を行う場合には、前回の構成時にXMLの暗号化のために設定したパスワードを入力してください。前回の設定を引き継がず、最初から構成設定を行う場合は、「Overwrite」(上書き)を選択してください。

9	WinShare.....	9-1
9.1	WinShareについて.....	9-1
9.1.1	WinShare とは.....	9-1
9.1.2	画面構成 .....	9-1
9.1.3	CMデータビューアからのWinShareの起動.....	9-3
9.1.4	CM管理ツールからのWinShareの起動.....	9-4
9.1.5	オペレーションウィンドウからのWinShareの起動 .....	9-5
9.2	WinShareの操作 .....	9-6
9.2.1	メニュー一覧.....	9-6
9.2.2	「接続」メニュー.....	9-8
9.2.3	「表示」メニュー.....	9-12
9.2.4	「ファイル」メニュー.....	9-13
9.2.5	「操作」メニュー.....	9-15
9.2.6	「コマンド実行」メニュー .....	9-18
9.2.7	「設定」メニュー.....	9-25
9.2.8	「ヘルプ」メニュー .....	9-32
9.3	WinShareユーティリティ.....	9-33
9.3.1	ユーティリティの起動.....	9-34
9.3.2	接続設定 .....	9-35
9.3.3	アクセスホスト .....	9-37
9.3.4	ユーザ管理.....	9-39
9.3.5	電源情報設定 .....	9-58
9.3.6	ログ設定 .....	9-61
9.3.7	ポート設定.....	9-68
9.4	WinShareお役立ち情報 .....	9-69
9.4.1	通信経路上にファイアウォールが存在する場合に必要な設定 .....	9-69
9.4.2	通信経路上にファイアウォールが存在する場合に必要な設定 .....	9-71
9.4.3	CTRL+ALT+DEL送信を行うために必要な設定.....	9-74
9.4.4	IPアドレスやホスト名を変更した場合の影響について .....	9-76
9.4.5	異なるバージョンの相互接続について .....	9-77
9.4.6	バージョンアップ時の設定の引き継ぎについて .....	9-78
9.4.7	利用するポート番号の変更方法.....	9-79
9.4.8	対応するディスプレイ解像度の変更方法 .....	9-84
9.4.9	リモート操作時のキー入力に関する注意事項.....	9-85
9.4.10	AMTのプロビジョニング方法 .....	9-86